

「岳陽」と共に

あくまでも自分史として

(総集版)

P a r t 6

(第61～72号)

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

令和8年4月

※本版は、令和7年11月から書き記した新通信『岳陽』と共に(61号~72号)を、これまでのように総集したものです。改めての、ご笑読をお願い致します。なお、一部若干の手直しをしていますこと、ご了解下さい。ちなみに、創刊号から60号までの分は、「合作総集版 (Vol. 1)」として別途発刊していますこと、ご承知かと思致します。

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市大謝名 3-13-24

教育協働研究所～岳陽舎～ (井上講四宅)

Tel:098-963-9282 / E-mail: gakuyou17@outlook.jp

HP URL : <http://www.gakuyou.jp>

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 61 号

発行日 2025.10. 15
 編集・発行 井上講四／堂本彰夫
 ※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
 Tel:098-963-9282
 E-mail: gakuyou17@outlook.jp

○「may be」が、飛んでもない事態に?!

先日、Line上のやり取りで、飛んでもない事態(笑話?)が発生した!私の発信で、「may be」を使ったのだが、思わぬ展開となったのだ!実は、これは、私が、唯一「ライジングループ」に入っている家族5人でのやり取りの1コマであるが、長女達(40代)が、「キムタク」を出してきたのである!私には、何のこともかさっぱり分からなかったが、後で判明したのは、それが、彼女らが少女時代に観た(私も一緒に観ていた!)テレビドラマの「口癖(決めゼリフ?)」であったという事である(もちろん私は、それ自体は忘れていた!)!

なお、そのドラマとは、木村拓哉演じるアイスホッケー選手...と、竹内結子演じるOL...による恋愛を主題とした作品「ブライド」で、『氷上の格闘技』と言われるほど過酷なアイスホッケーという競技にもスポットライトが当てられた、いわばスポ根(シラプストーリー)で、「月9ドラマでは歴代2位の...平均視聴率を叩き出し、当時日本では人気の低かったアイスホッケーの普及にも大きく貢献した」ともあった。また、「ロックバンド『Queen』の楽曲が作中で多く使用されたことから、同バンドの日本での人気再燃のきっかけにもなるなど、多方面で話題を読んだ」ともあった。

要は、作中でキムタク...が、「メイビー」という言葉を用することでおなじみだった」のであるが(やがて仮初の恋人だった...への思いが、「メイビー」から「マストビー」(Must be)へと変わっていく...の心境の変化も、この作品の魅力の一つ)、この英語が、「本作の根幹を形成する重要なキーワード」だったのである!娘達は、今でも、この言葉を覚えていたということであるが、何とも言えない「懐古?」であった!

○改めて「実感」された、これからの「ヴィジョン」?!

そんな中、たまたま、あるテレビ番組の再放送分を観た!「東海ドまんなか!」都会から地方へ!つながりが生むイノベーション』という番組であったが(NHK)とても興味深いもので、これからの人々(市民/庶民)の生き方、地域社会のあり方を、さりげなく示すものでもあった?!これまでも、それと似たような取り組みは、個別には、多々見た(聞いた)ような気がするが、何故か、今回は、それらが、これからの「ヴィジョン」を指し示すものとして、改めて実感されたということである!

例えば、「あなたには、第2のふるさとやお気に入りの地域はありますか?」ということ、今、観光以上・移住未済で地域や住民と関わる『関係人口』に注目が集まっている。親子での地方留学や、旅とお手伝いを兼ねた地方滞在など、地域と新たな接点を持つサービスも大人気。岐阜県飛騨市では、地域のファンを増やす取り組みで、のべ5千人が産業や行事の“助っ人”に。人口が減る町の担い手としても期待されている。都会と地方、新たなつながりの可能性とは?というところであったが、「諦め」や「無力感」が漂っている現代社会(日本)における、一つの打開策なのではないかということである?!

少子高齢化や過疎化の進行に伴う「定住人口」の減少/不均衡がもたらす弊害や危機(限界あるいは消滅集落)の中、「交流人口」の増大が叫ばれてきたが、今回のような「関係人口」の発見は、新たな可能性を有しているということであるが、ここでもまた、そこには、確かな「思いのある人達」がいるということでもあった!

○初の女性首相誕生?ただ、「人事」が彼女の想いを惑わす?!

こんな形で、我が国初の女性首相誕生?のことを書く(こうとは考えてもいなかったが、勝手に自分の過去に託(たく)けて(笑?)、これから生じるであろう?、彼女の苦悩について記しておきたい!要は、いかなる思い、事情があるにしても、トツプ(リーダー)になれば、自らの意思や好み?だけでは、いわゆる「人事」がうまく進まないということである(既に、その兆候が見え始めている?)!私の狭い(否、ちっぽけな?)経験からしても、そのトツプ(リーダー)の座は、自らの思いと努力で(決して才能ではない!)勝ち得たものでも、それが実現したのは、残念ながら?多くの利害得失のバランス?の上でのものであって、決して自分だけの力ではない(たとえ、そう自負していたとしても?)!とりわけ、「政治」の世界では、そこでの虚実が甚だしいということでもある!

しかるに、それは、往々にして後から気づくものでもあるが(ピユアな、否、無垢な人間にはそう?)、そこでのしがらみや重圧は、徐々に強くなっていく?運営や施策それ自体がうまくいっている場合はそうではないが、一度問題や懸念事項が発覚すると、そうした関係が、剥き出しとなっていく!いわゆる、「トツプ(リーダー)の孤独」と呼ばれる事態が、そうなのであるが、そこに、本当の意味での「同志」や「仲間」がいなければ、途轍もない苦悩(地獄?)が待ち受けている!そういうことである!現在、新たな展開が始まっているようでもあるが、トツプ(リーダー)は、そこを、何とか突破していかねばならないのである?!

何とも可哀そうではあるが、それが現実なのだから、ある意味どうしようもない!ただし、私は、彼女や、彼女が所属している政党のファンでもなければ、支持者でもない(基本的に、既成政党に興味はない!そもそも政治の世界が嫌いだ?)!だから、その推移を、傍から(遠くから?)、淡々と眺めていくことになる!だが、不気味なのは、そうした混乱を、どこかでほくそ笑んでいる国があるかもしれないということである?これ以上のことは書きたくないが、しかし、そうした混乱(政争)を傍目に、来るべき未来と自らの生活基盤をしっかりと見据えて、頑張っている人達、一方で、無数にいることを忘れてはいけない! (井上)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 62 号

発行日 2025.10. 30
編集・発行 井上講四/堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakuyou17@outlook.jp

○広島(岡山)への旅 だが若き日のそれは既になく?

まずは、久々の広島であった!思いも寄らぬ連絡があった、大学学部時代の卒業同期の同窓会に参加したのである! あったので(入学は、私の方が一年早かった!)、少々行くことを躊躇したが、世話人のH夫妻の心温まる誘いによって、思い切つて顔を出した次第である!よくぞ、誘つていただいたものである!その厚情には、素直に感謝するしかない!

思えば、大学学部時代は、それこそ疾風怒濤の時であった(ただし、その後も、そうであったのだが?笑!中学校の体育教師を目指してH大学教育学部に入ったものの、そして、一応卒業だけはさせてもらったものの、その後は、かなり違った方向に進んだ私であったので、何か罪悪感(否、劣等感?)をもつていたわけである!当時の状況が、私の人生?を大きく変えてしまったことは、今となつては、ただただ懐かしいばかりであるが、そのことは、長い間、心の隅に隠されていた(あまり、他人には話さなかつたということである!)

さて、いつもの日常であるが、実は、あまり話したくないが(恥ずかしいので)、過日、久々のパニックに陥つてしまつた!以前(54号)に書いていたと思うが、現在生成AI「NotebkM」を活用して、我がHP上の誌面の充実?を図っているが、それには、ファイル変換ソフトが入用で、たまたま教えてもらった、無料のそれ(これは「音声解説」の方)をダウンロードして重宝がつていたが、欲を出して?「動画解説」の方まで手を伸ばしてしまつたのである!

尤も、その対処法を知らずに、気楽に?利用していた私(高齢者?)が悪いのであるが、後から分かつたことは(幸い、三女が迅速に調べてくれた、その落とし穴は、いわゆる「ネット詐欺」の一種であつた!高齢者無知の極み?)の為せる業とは言え、便利と危険は、まさに隣同士ということでもある!問題は、それを変換するソフトが、新たに入手となり、同じように、ネットから無料ソフトをダウンロードして使用していたのであるが、何かの拍子に、突然画面がおかしくなり、緊急事態が発せられたのである(まさに炎上の呈?偽の電話まで掛けさせられた!これが、危なかつたのである!)

今回、その鬱屈とした思いは、ほとんど消え去つたように思うが、人には、やはり様々なわだかまりがあるものである(青春時代とは、まさにそういうものであろう!)!そんなことを思いながら、翌日は、次の目的地岡山に移動したのである(そこでは、高校時代の友人と、古墳/神社巡りを計画していた!)、会の前に、思い出深い南区周辺(皆実町・翠町・宇品神田町/13年間居住していた)を、重たい足を引きずりながら?歩いた!まったく当時の面影はなく(激変!)、残つていた商店街通りで、かの広島風お好み焼きを食べ、往時を思い出し

てはみたが、さながら、現代の浦島太郎であつたかも!!

○プロダクト(コンテンツ)の魅力とは?しかし、その前に?とここで、先般実施した「教育協働アカデミー」は不覚であつた!オンライン参加はともかく、対面参加者が、ほとんどいなかったのである!中身は良いのに(時宜を得たテーマ!)、何故、参加者が少なかったのか?PRの問題、場所、曜日・時間帯等の問題、要因は少なからずあるが(ある意味「いつも通り」?)、考えさせられることは、改めて幾つかあつた(いずれにしても、準備してくれた、メインスピーカーのA君(さん)には申し訳なかつた!)

ここでは、そのすべては書けないが、当日のテーマであつた「AI時代の社会教育のヒントー実践者の思いの実現について」に関わらせて(プロダクト/コンテンツの魅力、一つだけ、ここに記しておきたいことがある!それは、そこにある「つながりの強度」(思いの共有度と言つてもよい?)のことである!今流行の?「世界線」ということでは、それが、メンバー/参加者間で、どのように交わつていくかということである!もし、それが、意味のある関係として十分に交わつていなければ、結局は、呼びかけ側の「自己満足」ということにもなるが、みんな、そこそこ忙しいのである!なので、そこを超える何かが必要なのである!!

ただし、それは、ただ、その時に顔を合わせることでない!言い換えれば、時々の参加/不参加は、どうでもよいのである!要は、その集まり(出会)に対する、当事者の思いが重要なのである!最低限、参加できない知らせとか、その日のテーマに関するメッセージを送るとか、メンバー間で、それがなされているかどうかなのである!それがなければ、いつまで経つても、一過性の出会いに過ぎないものとなる!だから、現在、HPでの記事も工夫せねばと、鋭意奮闘中であるが、果たしてどうなるのか(そもそも、その意義はあるのかどうかも含めて?)!!

ちなみに、ネット上には、それこそ無数の記事・動画等がある!だが、これは物凄く良いものと思えるものであつても、必ずしも視聴者数(チャンネル登録数)が多いわけではない?見せ方とか、MC?のキャラとかが、おそらく影響しているものと思えるが、つくづく誘う/伝えることの難しさ(もどかしさ)を感じる!Zoomは、そのための有効なツールなのであるが...(井上)

○教えられる「人と動物」の関係！否、それ以上!!

またしても、感動的なシーンを見せてもらった！それは、NHKの「さよならレザン再び」全盲のテノール歌手・天野亨が語る盲導犬との絆と新たな相棒「アラド」という番組【時をかけるテレビ：総合・司会 池上彰】／10月10日）であつたが、「目が見えない世界の中で、人と犬が互いを信じ、支え合いながら歩く姿、その背後には、想像を超える努力と、言葉を超えた信頼の積み重ねがあります」とあつた。2000年に放送された「ドキュメンタリー」『さよならレザン』を取り上げ、全盲のテノール歌手・天野亨さんと盲導犬レザンの深い絆を再び映し出す別れ、そして新たな出会い。

天野さんが盲導犬と暮らし始めたのは、1988年。初めてのパートナー・ブレンダとの出会いをきっかけに、人と犬の協働生活が始まる。その後、「アンディ」「クラウス」と続く歴代の盲導犬の中でも、レザンは特に長く寄り添つた。レザンはラブラドル・レトリバーの雄、落ち着いた性格と高い集中力を持ち、天野さんのステージ活動を何年にもわたって支え続けた。全国各地のコンサート会場には、いつもレザンの姿があつた。ステージのすぐ近くで静かに待機し、観客の拍手にも動じず、天野さんが歌い終えるまでじっとその姿を見守る。音の世界で生きる天野さんにとって、レザンの存在は、もう一つの「目」であると同時に、「心の支え」でもあつたということである！

「レザンがいると、不安が消える。声が自由に出る」と語つたことがある。視覚を失つてもなお、音楽で世界とつながるために必要だつたのは、ただ安全に歩くための盲導犬ではなく、「心を通わせるパートナー」だつた。天野さんと盲導犬レザンの物語を通して、「共生」という言葉の本当の意味を見つめ直す。人間社会では、障害や動物との関係を「支える・支えられる」という構図で語りがちだが、彼らの関係は、もっと深い「相互の尊重」の上に成り立っている（犬が人を導くのではなく、人が犬を信じる。そしてその信頼が、次の一步を生み出す）。何という関係なのだ！

○予期せぬこと（珍事件？）が続いて起きた!!

ここは、私（井上）の担当ではないが、今回は特別となる。実は、表面で書いたが、私は、我が奥さんと一緒に、懐かしく広島島、そして、三女が住む岡山に出かけていたのであるが（これに合わせて、千葉に住むY君／高校時代の友人と吉備路を楽しみ、次の日は、三女と一緒に、播州赤穂への一泊旅行もした）、ところが、である！帰沖の瞬間に、驚くべきメールが届いた！三女からのものであつたが、何とも予期せぬ内容であつた！先ほどまで一緒に居たのに、直接言えなかつたのであろう（父親としては複雑?!）だが、予期せぬこととは、帰沖後もあつた!というの、岡山に住むS君が、

パートナーと一緒に、我が家を訪ねてくることになつてい（私達とは逆に、彼らが沖縄訪問！笑、その日が違つていたのである（約束の時間が過ぎて、なかなか現れなかつたので心配になつて電話したのであるが、その日は次の日だつた!）！約束は電話でしていたので、日程を勘違いしていたのである（何とも情けない話である!）、これもまた、私にしてみれば、予期せぬ出来事（珍事件?）である!

〈短歌に託して〉予期せぬことに!これもまた麗し〜
遠き日の関係 たゞと苦くも尊く!

お陰で また一つ豊かになる!!
AI時代の落とし穴 無知であれば嵌る
高齢ならば さびに深く嵌る!!

考えさせられる 我がプロダクト!
支えるものは? 問われる魅力とは?

何ということか こんな関係があるなんて!
教えられる以上に そこには何かある!!

予期せぬ出来事! 思いも寄らぬ珍事件?
だがそれらは 縁ある者の織りなす綾!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕622

○突然だが、ここで「高天原神話」を探る?ーその2ー
しかるに、先号(61)では、「記紀神話」とりわけ「高天原神話」ある意味「見え見え」の動機と内容構成を示している?ことを記したが、そこには、途轍もなく複雑な史実が織り込まれていることは事実であらう!!そして、それは、時の政権勢力の「正当性」「正統性」を導く壮大な創作ドラマとも言えるが、その最も大きなシナリオ枠は、おそらく(ある意味必然?)、先代の「天武政権」と、それを受け継いだように見せかけた「持統・藤原政権」の確執と、その勝利のプロセス呈示(実は、先代代の「天智政権」の復権?そして、新政権の誕生?)でもある!!そう、思われなければならないことである!!

というのも、かの「天武」亡き後、その後継は、「胸形(宗憲)徳善」の娘「尼子娘(まよひ)」との子の「高市(高市)皇子」であつたようであるが(実際に、彼は「天皇位」についていたようである!その証拠の一つが、子の「長屋王」が「親王」と呼ばれていたことによる!「親王」は、天皇の皇子を指す!、しかし、記紀は、その着座を認めず、持統自ら「天皇位」に着いたことになつてい(そして、それが、まさに「天照大神」への昇華を指しているわけであるが(彼女の諱が、「大倭根子(おほまほこ)尊」から「高天原(たかみけ)尊(みかみ)尊」に変わった)、そうした史実を歪曲(都合のいいように再編成)するために構想されたのが、他ならぬ「伊弉諾(いざな)ノ伊弉冉(いざなみ)」による「国生み・神生み」の物語だということである!!

その壮大な「国生み・神生み」の物語は、直接(ここでは示す)ことは出来ないが、その作成動機は、奪い取つた「天武」の王統の否定であることは言うまでもない!!神話自体のクライマックスは、いわゆる「三貴子」の誕生譚であるが(これについては、次号で記すつもりである)、

「天常立(あまのつとむ)尊」を天上(高天原)の柱として、「高皇産靈(たかみかほ)尊」／「神皇産靈(かみかほ)尊」↓「伊弉諾」／「伊弉冉」↓「天照大神」／「素戔鳴命」↓「瓊瓊杵(むすしほ)尊」／「大国主命」↓そして、「神武」へと、双方の勢力が、一つに収斂していくことである!!それが、「持統・藤原政権」の正統性／正当性の主張(根拠)なのである!!(つづく)(堂本)〈編集後記〉 やつと暑さが収束?そして、政治の喧騒も?各地でクマ被害が多発しているが、我々の生活環境は、想像以上に変わつていつてしまつていくということか!! (井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 63 号

発行日 2025.11.15
編集・発行 井上講四/堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○彼らの活躍に思ったこと、何を見出せばよいか？

先般の、ドジャース優勝、そして、日本人選手の活躍について、ここでは少し書いておきたい！だが、下手な贅辞や高年齢者の暇ぶり？を、高々と披歴したくはない！要は、優勝（二連覇、おめでととか、三人の日本人選手（大谷・山本・佐々木）の活躍を、日本人として、大変誇りに思うとか、そういうことを言うつもりではないということである（結果的には、そうなるかもしれないが？）！まずは、純粹に、試合そのものが面白かったし、その中で日本人選手の活躍が素晴らし

く、そのことに感銘を受けたということである！

ところで、最早、数多の日本人スポーツ選手が、海外に飛び出し、しかも、その中で、トッププレーヤーの座を獲得していることは、さほど珍しいことではない！隔世の感、極まじカルトレーニングがナインに衝撃と刺激を与えた。

ということであるが、一方では、同じ若者でも、自宅に塾居し、長い間「引きこもり状態」にある事実もある！何とも居ない光景（コントラスト）であるが、それを、ただ「多様性」や「個性」の名の下に押し殺しておくことは出来ない！を考えて投げることはできないので動きの中で優先順位生育環境や能力そのものの違いが（努力の積み重ねも含めて）、そういう二極化現象をもたらしているわけではあるう

が、何とかならないものかと、つくづく思ったりもする！

余談？だが、今回、私は、三人の選手の表情に、一つの興味を抱いて見ていた！大谷選手の、屈託のない表情、まさにプレーそのものを楽しんでいた！山本選手は、あまり表情の違いは感じさせないが、淡々と、自らの投球をしていた！左々木選手は、まだ、どこか不安げな表情で、大丈夫かなという思いを感じさせていたが、どうにか、彼の持っている力を発揮していた！いずれにしても、みな流石であった！

○ついでに、こんな記事まで見つけてしまった！

そんな中、こんな記事まで見つけてしまった！それは、矢田氏と出会い、逆立ちトレ、やり投げトレに取り組んできた。日本でトップを極めてドジャース入りし、矢田氏はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた

「山本はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた矢田氏と出会い、逆立ちトレ、やり投げトレに取り組んできた。日本でトップを極めてドジャース入りし、矢田氏はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた

「山本はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた矢田氏と出会い、逆立ちトレ、やり投げトレに取り組んできた。日本でトップを極めてドジャース入りし、矢田氏はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた

「山本はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた矢田氏と出会い、逆立ちトレ、やり投げトレに取り組んできた。日本でトップを極めてドジャース入りし、矢田氏はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた

「山本はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた矢田氏と出会い、逆立ちトレ、やり投げトレに取り組んできた。日本でトップを極めてドジャース入りし、矢田氏はオリックス入団後に大阪で治療院を営んでいた

○過去には戻れない！だが、自らの「生」は回収できる!!

NHKの番組（総合）「Dear にっぽん」には、ほとんど毎回感動させられるが、今回のそれには、何故か、それ以上のものを感じさせられた！それは、「描く、もう一度生きろ」熊本・人吉」というものであったが（10月26日（日）午前8時25分から/全国版）、番組内容自体はうまく伝えることができないので、以下、いつものように、ネット上の紹介記事を挙げる！

「画家の吉田紀子さん（56）。長く精神疾患に苦しみ、孤独な内面を激しいタッチで描き続けてきた。10代の頃から自宅に閉じこもる日々を送ってきた吉田さん。父を亡くし、母も入院して孤独を深めるなか、数年前、初めて絵の展覧会を開き、新たな一歩を踏み出そうとしている。さりげなく支えるのは地元、熊本・人吉市の人たちだ。閉ざされてきた世界から歩み出て、新たな人生を歩もうとする中、紀子さんの絵は変わろうとしている。」

番組中での彼女の喋りとか表情とかが、まったく紹介できないのが残念であるが（今回は、特にそう思う！）、一人の人間の生き様、過去には戻れない哀しさ、だけど、今、何か大きな地殻変動が起きて、自らの生を生き直そうとしている彼女の姿が、この種の番組にありがちな「何とも言えない圧迫感（適切な表現ではないかもしれないが）」が、不思議と感じられなかったのである!!親（確か両親は元教師だった!!）の生の枠（制約?）の中でしか生きてこれなかった「いたいけな少女」が、やつとその軛から解放され、自らの生を取り戻そうとしている（親との関係性を含めて?）!!私には、そのように思えた!!

人は、自らの境遇に支配されながら、まずは生きていかなければならない！親子関係が、その最初であるが、多くは、それを出発点としながら、様々な人間関係を獲得していく（結婚相手は、その典型である?）!だが、病気や不慮の事故等によって、その獲得が難しくなることもある!否、それ自身が、悲しみや苦しみをもちたすこととある!今回は、いわゆる「障害を乗り越えて」というようなことよりは、可能であった「様々な人間関係」が、いつでも（再）構築できる（たとえ相手が故人であっても!）?そういうメッセージであったようにも思える!!だから、いつもと違った?（井上）

人は、自らの境遇に支配されながら、まずは生きていかなければならない！親子関係が、その最初であるが、多くは、それを出発点としながら、様々な人間関係を獲得していく（結婚相手は、その典型である?）!だが、病気や不慮の事故等によって、その獲得が難しくなることもある!否、それ自身が、悲しみや苦しみをもちたすこととある!今回は、いわゆる「障害を乗り越えて」というようなことよりは、可能であった「様々な人間関係」が、いつでも（再）構築できる（たとえ相手が故人であっても!）?そういうメッセージであったようにも思える!!だから、いつもと違った?（井上）

○あー「生涯学習」よーそれはそれでよいのだ!!

さて、妙なところで、「生涯学習」に出くわした！作家の佐藤優氏（元外務省主席分析官）の『定年後の日本人は世界一の樂園を生きる』(Gaiada 新書)が紹介されていたが(PRESIDENT Online 第一回)、「社会人の学び直し」(リスキリング)が注目を集めている。具体的にどんな勉強をすればいいのか」ということで、「過去に学んだ知識を呼び起こすのがいい。…高校の教科書やオンライン講座などを利用して自由楽しく学び続けることが、定年後もつづく生きがいには…社会人は『英語』の勉強はしなくていい」と語る同本が、注目されたのであろう!!

「定年後人生を豊かにする学びの習慣」いくつになっても学習し続けることは、もはや当たり前／生涯学習は、もう特別なものではなくなった。学習意欲を持ち、学び続けることは、人生を豊かにし、また社会全体にも寄与／その際は、自分の得意な分野を深掘りする、あるいは若いころに苦手だった分野や、また事情があつて進めなかつた分野の勉強をするなど、何でもあり：学ぶ目的も学び方も、それぞれ：ただし、このとき、定年後に学ぶべきことを、まずは明確にして箇条書きにすべき」ともある。

「学問や教養は、目的があるほど身に付きやすい：外国で仕事をするために英語を習うのと、単に余った時間で漠然と英語を習うのでは、身に付き方に大きな差：そこに年齢という条件が：定年後に基礎から語学を習おうと思っても、それは無理：勉強すること自体が楽しいのであれば、…良い。…生涯学習とは、広い概念で、自分のキャリアとは連動せず、自分の関心を深掘りして、生きがいにするこゝと：趣味、スポーツ、芸事などを、無理なく楽しく学ぶこゝと：教養を深めたい、知識を増やしたい、勉強すること自体が楽しいという人にピッタリなのが生涯学習だ。」
読めば読むほど、まったくの同感であるが、「生涯学習」という言い方(概念)は、これはこれでよいのだと、改めて納得した次第である(あれほど拘つてきたのに一笑！)

○同じ待つでも、「信じて待つしかない」ものもある？

先に、「待つこと」の意義(楽しさ?)について書いたと思ふが(私塾本ではないかもしれないが？笑、同じ待つでも自分ではどうしようもないそれがあることに、改めて気づかされている！その一つが、「教育協働アカデミー」のことであるが、今月のそれが終わった後、来月のことについて、参加者の二人(ユアメンバー)に、内容と、その準備を委ねることになった！自ら動けばよいのであるが、思い切つて彼らに任せただけか？その知らせを待つだけの日々は、不安ではあるが、それしかないのである！その待つ日々であるが、我が娘からのそれと同じである！多少気が障かもしれないが、信じて待つしかないであろう！

「短歌に託して二種類の「待つ」に彩られつつ!!」
・勝利とか 名譽(誇り)とか
いろいろあつたが 姿そのものが聖?
・神の域? ただそれを体現するは
生身の人間 そこに東洋の神秘が?
・戻れない過去! されどその回収はできる?
それが「生」の価値なのだ!

・生涯学習 その意義は 学ぶ側にあり!
それ自体は 変わらぬ真理なり!
・待つしかない? そういうことが多すぎる?
だがこれもまた 今の我が生!!

○特別コーナー〜堂本彰夫の古代史旅枕633〜

○突然だが、「こゝで」「高天原神話」を探る?ーその3ー
ということ、記紀神話とりわけ「高天原神話」には、その編纂当時の「勝ち組と負け組」の関係と構図が埋め込まれている(暗喩)ということであるが、問題は、実際の、その両者の構成勢力と、その出自である!!「高天原系(天津神)」と「出雲系(国津神)」というように分けられているが、最終的には、前者が、後者を、いわゆる「国譲り」させて、その覇権を奪取した形となっている(少なくとも、天孫「瓊瓊杵尊」の降臨前までは)ーただし、その形や場所、そしてプロセスは、何とも言えない奇妙なものである(その最大のものが、「天孫降臨(の地)」であることは言うまでもない)!

尤も、天孫降臨自体は、実際にはあり得ない話なので(物理的に不可能)、その形やプロセスは、おそらく「海外からの渡来」のことであると思われる!そして、渡来後の勢力拡大、あるいは他の「元在勢力」の駆逐のプロセスを、そのように譬えたということであろう!!今のところ、それは、最後に渡してきた「百濟系(北方扶桑系)の勢力が、先に渡来していたと思われる「伽耶・新羅系(いわゆる「倭人」/「吳越系」あるいは「南方系」)の勢力を凌駕していったことを指している」と捉えているが、その具体は、またまた五里霧中ではある(「倭・奴国」や「伊都国」、さらには「邪馬台国」や「狗奴国」の実態(俗も、大いに関係している))!

そこで気になるのが、やはり「三貴子」の存在である!なかでも、実は「素戔嗚命」も天孫なのに、何故か「出雲系」となっていること、そしてそれよりも何よりも、その「三貴子」の一人に「月読尊」がなっていることである!おそらくそれは、謎の豪族「秦氏」のことを指している(私自身は推測しているが(ほぼ間違いない))、「天照大神」は「左目」、素戔嗚命は「鼻」からとされているが、「月讀尊」は「右目」から生じている!それが、実際、何を意味するかなのである!!
ちなみに、その「元ネタ(モチーフ)」は、実は他の国にあり、こゝでの物語は、それを借用したもののようにも思えるが、繰り返すように、そのねらいは、最終的には、勝利した側(天照/天孫族・天津神)と敗北した側(素戔嗚命/出雲族・国津神)の歴史を、言わば対称・相補させながら描くことであつたと思われる!!(つづ)

(堂本)
編集後記 今回も一応紙面を埋めてはみたが、「我が生」を重ねつつ、書きたいことは山ほどある?不見限!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 64 号

発行日
2025.11. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○これも終活の一つ？奇跡のような同期会！

この数カ月、懐かしい再会や、新たな出会いの機会が多い！自らが、各地に出かけ（用件は様々だが）、ある意味積んでいる！もちろん、手当たり次第に視聴しているわけ極的に、その機会を創り出していることが原因なのであるではないが（古代史関係が中心である）、その中に、私にとっては、これもまた、一つの「終活」の形かもしれない（インパクトのある？）人物がいることがれない！！今動かなければ、これから先、同じことが出来るか分かってきた！なかでも、MMという人物（作家／予備と言え、おそらく出来ない（結果的に出来たとしても）！校講師という肩書であるが、古代史、そして現代史の双だから、今無理してでも動いておこう！そういうことであらうで、とても歯切れのよい発言が（多少暴言気味に気になる！それが、今回は、高校の、沖縄でのミニミニ同期会へののが？笑、目に付くのである（多くの人達との交流、そして参加である（それにしても、何故沖縄で？）！

○見えてきた、我が最後の、「心？」のスタンス？

実は、この会は、確か、3年前の、「古希」を祝つての全体同期会をきっかけとして生まれたものであるが、今回は、これまでの、その種の人物と比べると、かなりの懸隔がある（沖繩での「泊旅行」となった次第である！僅か11名の人（もちろんいい意味で！）彼のスタンスは、いわゆる数であったが、久しぶりの再会であった（二人？は、55年振「保守」だそうである（だが、今までのそれとは一味違？）！）！詳しい旅の紹介は、ここでは出来ないが、一つここで、ここで書いておきたいことは、その「保守」と、書いておきたいことは、参加者全員が、この旅を（短い！）れと対峙する「革新」（否、「リベラル」？）の関係、換言ただし、数泊の人もいた！）、自分の思い出や、現在の暮らしすれば、国の歴史や政治の大きな分析枠として、彼が縦に、彩りを添えるために（私が、それを、ある種の「終活」と位横無尽に駆使している、その「知性？」についてである！置付けたように？）、動いたであろうことである！

端的には、私がこれまで抱いていた、既存の政党や、ただし、こういう会は、過去何度も書いているが、中心とそれに、相変わらずのレッテルを張つてしか、現状を見たり世話をする人がいないと、実現しない！この会では、Kることがないマスコミに対する違和感の原因を、彼の言（旧姓S）さんのような存在（F県在住）であるが、一年前か動いて知らされたように思うということである！

ら計画を立て、予約・交渉等も、すべて彼女が行った！地元詳しくは、これ以上書けないが、自らが、これから依つ在在の身としては、大変申し訳なかったとも思うが、甘えさせて立つスタンス（心？思想？）が、少し見えてきたといせてもらったということである！いずれにしても、大変楽しいうことである！保守と革新（リベラル？）の相剋（融合？）い時間であった！一人、我が家に前泊をしてくれた友人（Y）を、如何に新しいものにしていくか？それが、私の最後の君もいたが、まるで奇跡としか言いようがない！

のスタンスなのかもしれない？

○日本の教育の強み？否、良さ？それを失くすな！

そんな中、過日、ネット記事で、「日本の教育の強み」についての論稿をみた（DIAMOND online: 11/17配信）。少しインパクト（情報）が古いようにも感じたが、大切な指摘だと思つたので、敢えて、ここで紹介しておきたい。多少長くなるが、「近年、『北欧の教育に学べ』『フィンランド式学びのデザイン』といったテーマの教育書をよく見かけます。確かに、海外の教育には参考になる点が多くあります。子どもの主体性を重んじる仕組みや、探究的な授業デザインなど、学ぶべきところは多いでしょう。しかし一方で、私たちは『外国の教育が優れている』日本の教育が劣っている』と思ひ込んでしまつてはいないでしょうか。実際のところ、日本の教育には世界に誇れる強みが多くあります。むしろ、海外の教育関係者の中には『日本の教育から学びたい』と言う人も少なくありません。』とあった。

そして、「世界トップレベルの学力」として、「海外の教育者・大学関係者や研究者が、『日本の学生は本当に優秀だ』と言う。英語が喋れない人が多いという点を除けば、数学的思考力・論理的思考力・読解力の水準は非常に高い（OECDのPISA・国際学習到達度調査／15歳を対象に『数学リテラシー』『科学リテラシー』『読解力』などを比較。日本の生徒たちは常に数学リテラシーで世界トップクラスの成績を維持しています。つまり、『知識の詰め込み教育』と批判されがちな日本の教育ですが、その知識の裏にはしっかりとした思考力が育まれているのです』とあった。

もちろん、それはそれで、傾聴に値する見解であろうが（しかも事実？）、私は、それとは違う形で、日本の教育には、他国にはない？強さ、否、良さを感じている（ただし、こちらは、かなり主観的、否、独善的かも）。教師と生徒（学生）との人間関係や、クラスとしてのまとまりや協力関係は、極端に言えば、とても良いものだと思つているのである！だが、それが、現在では、その逆となつており、しかも、それ自体が、様々な問題を惹き起（？）しているともされる（表面的には？）！最早、時代状況にそぐわないとも言われているが、果たしてそれでいいのだろうか？要するに、そんなに簡単に、「良さ」を捨ててはいけないということである！（井上）

○何故、このようになるのか？その原因究明が先決！

本当は、このようなことは書きたくないのであるが、表面の井上氏の決意？に促されて、浅薄ではあるが、私の方でも、関連して少しだけ書いておきたい！それは、今般の「首相発言（台湾有事関係）」に端を発する騒動（今のところは、このことである！彼女の発言（答弁）が、予期せぬ？事態「端的に言えば、日中間の悪化？」をもたらしているという）とであるが、何とも言えない、鬱屈とした思いを抱かざるを得ない！どうして、いつもそうやってしまうのだ？その原因は、ある意味分かっているのに、何故、それが除去出来ない？しかも、すべてがそうやってしまおう！！

現実の外交には、自分達だけではどうしようもない状況・構図が立ちだかっているというところであるが、そこには、書くのも嫌になるくらい、重大な問題・課題が幾重にもある！そして、そのために、苦しい、そして悲しい日々を送っている人達がいる！国と国との関係上、そうならざるを得ないと言えは、まさにそうなのであるが、残念ながら、その打開策が見えていない（頼みの国連も）！否、それを拒否しようとしている国もある？そんな国々が、自国の利益を保持せんがために、虚々実々の駆け引き、動きを取っているのが（自国ファースト）、この世界とも言える！！それは、ある意味当然であろう！！

そこで、今回思ったことは、自国内での自分達の論議が、他方で、国外との関係に影響を及ぼすという状況、端的に言えば、「利用される場合がある！」ということ、為政者や国民が、どのように理解し、その対処策を共有し合えるかということである！言論の自由とか、思想信条の自由とか、いろいろあるが、それが、他人や他国にどのように受け止められるかということである！「お花畑」現実指向の人達が、揶揄的に使う？を夢見ることは大切なことであるが、それは、そこに住む住人（国民）が、その維持・管理に懸命に励まなければ、夢物語に終わる！！そのことだけは、残念ながら「冷徹な事実」であるということである！

○ズーム交流！その時だけの盛り上がり？

今では、私にとつては、一番のコミュニケーションのツールとなっている「ズーム」であるが、先般、3年前に行った「M市」との交流の場面を視聴した（自前での録画！）。その後、何の音沙汰もないので、担当者等も替わり、相変わらずの？状態なのだなとも思ったが、当地の友人であるYさんに、懐かしさも有り、思い切つて電話してみた！その後の状況は、案の定であったが、新しい教育長さんも、私の知っている人に替わっているようで、新たなお節介？も可能ですよと伝えたが、果たしてどうなるのか？

それにしても、録画しているものを見ると、その時々で、いい交流をしていると、改めて思う（多少自画自賛かな？）！だが、そこから、新たな動きが生まれていない？それはそれで、哀しい限りではあるが、仕方がない！それぞれは、それぞれの地で、それぞれの生を生きざるを得ないからである！単純に言えば、それぞれの「日常」があるということである！だが、何かかしないといけないなら、そこから飛翔しないといけない（どんなに小さくとも）！！

＜短歌に託して＞我が「納得と自覚」に陶醉しつづ〜♪
様々にある 終活の形！

奇跡の再会も その一つなり！ 感謝！

・我が最後の 「心 思想」？」のスタンス？

過去（保守）と未来（革新）を繋ぐこと！！

・我が国の強み？ 否、良さ？ それを失くすな！

教育の世界には それが多々ある（つた？）！

・「お花畑」 夢見ることと 揶揄することも

ただそれだけでは うまく行かず！

・案の定 何も変わっていない？

あれは幻だったのか？ 否、そうではないはず！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕64〜

○突然だが、ここで「高天原神話」を探る？！その4

三貴子についても、もう少し深掘りしたいところであるが、ここでは、天照大神の「天岩戸隠れ」について触れておきたい！ちなみに、そこには、件の「対称性／相補性」と関係する（つまり、それを象徴する、否、それを導かせる？）場面（要素）が、示されていると考えているのであるが、要は、これもまた、実際の事績（史実）ではなく、多分に、何かを暗示（象徴）するために考案されたものということである！

その最大の場面（要素）が、「隠れる前」の大神と「再び現れた」大神の関係である（それと並行して、別途気になるのが、「日食」との関係でもあるが）！単に、隠れた神が、再び姿を現したただけなのか？それとも、それは、いわゆる「大神の交代劇」であったのか？ということであるが（「卑弥呼」と「自身／尊」のそれ）、もし、後者であれば、そこで示されている事績（事件）は、その頃の氏族（各種勢力）の動きや関係を投影させているものとも言えるわけである！！

そこで、もし、そうであれば、かの「素戔嗚命」の乱暴狼藉は、ある時期からの「邪馬台国（連合）」の混乱と、その原因となった勢力の侵入が、そこに暗喩されているということになる！ただし、その場合、「素戔嗚命」の出雲追放（史は推定）は、その後のことであるので、その乱暴狼藉自体は、出雲以外の地で行われていたこととなる（二応、高天原）ということであるが、実際には邪馬台国（連合）＝倭國の地ということが、最も蓋然性が高い！！しかも、「素戔嗚命」自身も、天孫族の一員なのである（ある意味、天孫族の分裂ということかもしれない）！！

ということで、高天原神話においては、「魏志倭人伝」に示されている「卑弥呼ないし自身／尊」が、万世一系の皇祖神「天照大神」に昇華されているということであり、その存在（関係性）が、後の「持統天皇」に習合されているのではないかとということである！したがって、かの素戔嗚命の、高天原における乱暴狼藉や、その後の「出雲追放」八岐大蛇退治（出雲推定）→大國主の国作り→「國譲り」の神話は、その後の「邪馬台国（連合）＝倭國」の推移を示すものとも言えるのである！！（つづく）（堂本）

＜編集後記＞ いろんなところへ行った（参加した） 今月であったが、いよいよ残すところ、あと一月である！だが、いつもよりは、忙しそうである！！どうなることやら？（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 65 号

発行日

2025.12.15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○人生は、マラソン(単独走)か、駅伝(リレー走)か？

○こんなことがあっていいのかわか？

ある意味陳腐な話題とはなるが、最近のユーチューブ視聴(哲学・思想)歴史認識や文芸批評)に際して、直接的には文芸を通してではあるが(何人かのインフルエンサーが描き出す)、学問、否、人生のあり方を考えさせられている(本当に刺激的で、これまでの自分の思索、知識のあり様が、深いところから揺さ振りをかけられている?)！言い換えれば、自分自身のこれまでの様々な経験や思考の断片(こう言わざるを得ない!)が、それらによって焙り出され、再構成させられているとも言える!!本当に、彼らの知性、そして、彼らが創り出している知の世界、否、その仲間集団が羨ましい!!

その中で、誰かが言っていた(多分HY氏?この人は凄い!)、学問・文芸は、一種の「リレー」であるということに、ハッとさせられた!ただし、それは、当事者達の明示的な行為ではなく(それもあつかもされないが?)、結果として(だが必然?)生起してくるものであるというように捉え方である!!とにかく、その指摘が、真に納得させられるものであり、今の、自分の思索(パソコンを使った)この「通信」もそうである!)を、優しく受け止めてくれるようにも思えたのである!

要は、自分の「書く行為」が、多少なりとも意味のあるもの(に思える)ということであるが(自己満足?単なる老後の暇つぶしではない?)、それ自身が、これからの生き様に力を与えてくれるということである(たとえ身近な人々、否、奥さん?が分かってくれなくとも?)笑!!よく、人生は「マラソン(単独走)」に譬えられるが、それを、「駅伝(リレー走)」として捉えれば、ある意味報われる?バトン/襷(たすき)の所在は心許ないが、書いていけば何とかなる?そう思つての物言いである!!

○こんなことがあっていいのかわか？

○こんなことがあっていいのかわか？

過目、久し振りに、長女一家が住む宮崎に行つていた!孫3人の活躍(サッカー)を見に行くことが主たる目的であつたが、個人的には、最後の最後に飛んでもない悲惨な目(情けないアクシデント?)にも遭遇し、別な意味でも、忘れ得ぬ旅となつた!具体的な内容は、ここでは書けないが、年を取ることには、いいこともあるが(本当にそう思う!)、こと体力や身体機能の衰えには、ほとほと嫌気がさす!だが、これもまた、今の自分なのである!本当は、こんなことを書きたくはないのであるが、これもまた、自らの、今の生の一部ではあるので、その記録として残しておきたいということである!

ということ、そのことについては、これ以上書かないが、目的の成就ということでは、今回の旅は、そこそこ達成された!一つだけ悔やまれるのは、双子(高校生)の弟の、本戦での不出場である(そして、試合も負けた!)!これもまた、詳しいことは書けないが、監督の選手起用の問題であつたようである!!もちろん、その真相については、私には、何とも言えないが、もう一人の孫(兄)の活躍が目立ってないので、私には、非常に複雑な光景であつた(ちなみに、昨年は、立場が逆であつた?)!

チームプレーであるので、しかも、沢山の選手の起用というものが、その基本にあるので、さらに、そうした中で、選手達は、人間的にも成長していくので(その時は、多少の紆余曲折はあつても?)、双子弟には、負けずに頑張つて欲しい!そして、長女一家の頑張りが報われて欲しいと祈るのみである(本当に、みんな頑張っている!)!

○「保守」と「革新」は、何に向かつて対峙しているのか？

さて、最近ユーチューブにハマっていることは告白済みであるが、これまで忌避(嫌悪?)していた政治論議にも、ある種の興味を抱き始めている?なかなか説明しづらいが、いわゆる「保守」と「革新」が、一体何に向かつて対峙(対立)しているのか?ということが、少し俯瞰的に分かるようになってきたということである!!それは、観念的には、今ある(これまでであつた)ものを保持(大事に)するという立場(価値観)と、それを変えよう(壊そう)とする立場(価値観)があるということであるが(前者は、伝統やこれまでの秩序を重んじる/後者は、それを壊す、変えようとする?)、その対立関係が変質してきている?そして、そこに「新しい保守?」が、別途顔を出してきて、その対立構図に新たな様相が加わっている!それが何を意味するのかへの、私なりの解答である!

別言すれば、これまでの対峙(対立)状況に、ある種の苛立ち、そして、諦めを決め込んでいた人達が、そこに新たに参入し、これまでとは違った力関係が形成されてきているということであるが、これを、どのように受け止めるのか?ということである!!単純に、それは、既存の政党や政治勢力(与党であろうが、野党であろうが!)に対する、ある種の異議申し立てであるわけであるが、基本的にはいいことであり(一時的には、それなりの混乱があるとしても!)、新たな進展を生み出す、ある種の出发点(二党独裁や馴れ合い二大政党制からの脱却?)でもあるということである!!

だが、冷静に考えてみると、「人が生きる」ということは、「何かを守る、そして変える」ということである!その双方の営みによつて、それが成り立っているということであるが(保守が革新的であつたり、革新が保守的であつたりするのは、その証左?だから、そこには、「保守」も「革新」もない?ただ、一所懸命に対処するだけ!)、自分は、保守であるとか、革新であるとか言つても、最早、それだけでは意味がない!!要は、自分が、どういうものを守り、どういうものを変えていきたいのか、その具体が、逐一問われるということである!そして、その際、何を選べば、自らが幸せとなるのか?そこを、一人一人が考え、動いていくしかないということである(いわゆる「国益」も、その延長線上にある?)! (井上)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 65 号

発行日
2025.12. 30
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○一年を振り返る！身体的には惨憺たる日もあったが…

今年も、いよいよ終わりである！例年のように？様々な出来事があったが、残念ながら、ここでは、その具体を挙げる事が出来ない（忘れていこう）！否、そのつもりもない（思っただけである）！だが、やはり、自分自身のこととは振り返っておきたい（実は、そのためにここでの記事も書いている）！

まず、世間的には、真に哀しい、かつ信じられないような事件・事故等もあったが（自然災害、戦争も！）、私的には、教子、友人・知人との再会、ネット上で見つけた心温まる風景、期待される取り組み、スポーツ観戦等に、楽しさと喜びを感じながらの日々であったことは言うまでもない！

だが、そんな中、超私的な事ではあるが、基本的には年に一度（お盆休暇中）、我が家は全員での再会を果たすのであるが、今年は、それに加えて、珍しく、それぞれ（三人娘）の居住地で再会を果たしたことになる！さらには、私の兄弟達（兄一人）、そして義兄妹達（二組）とも、それぞれに再会を果たした！そこでは、主たる目的が、それぞれにあつたわけであるが、現在の互いの生活振りを確認する（再会を喜び合おう）機会ともなった（二つだけ複雑な事情もあったが！）。そして、やはり、こうした身内関係は貴重なものであり、しかも不可避的なものであることも、実感させられた次第である（普段は、それぞれ忘れたように、お互いは生活している）！ちなみに、今月前半、実に久しぶりに風邪を引いてしまった（5年、否、それ以上振り）！幸いにも鼻風邪であったが、不摂生もあり、直りが遅かった（そのせいで、惨憺たる日もあったが、今となっては、これもまた思い出深きものである）！

○そこでも一つ一つ否が応でも蘇る過去、我が青春!!

そこで、ここではもう一つ書き記しておきたいことがある！それは、上記とも関係するが、幾つかの再会があったということである！そんなことは当たり前だと言われるかもしれないが、今年、特にそれが顕著であった！すなわち、今年、私の大学（50年振り）、大学院時期（一年スレているが！）との再会（50年振り）、大学院時代の先輩Oさん（現在某大学の学長、来沖の際、東京時代の職場同僚のSさん（沖縄への移住、高校時代の別の同級生達（彼らの沖縄旅行）、そして、そこから波及したクラスメートK君（東京在住。彼とは、電話とメールによる）との再会がそれである（他にもあったかもしれないが）！

とにかく、それらが、忘れていたことや思い出したくないことも、懐かしさと同じくらい多々あったが、それが、正直言って、それぞれの当地での日々は、懐かしさというよりも、後悔、否、あまり思い出したくないという気持ちの方が大きい！！自業自得と言えばそれまでであるが、彼らと過ごした時間や場所が、何故か私にとって、あまり芳しいものではなかったのだから、むしろそれは、彼らのせいではない！偏に、自らの為せる業の所為である！！だが、今となっては、そういうことも、すべて「昔の話」である！みんな容姿も変わっていた！そして、それぞれの今を生きている！その姿こそが、その関係に新たな意味をもたせるのである（これもまた終活の一コマ？）！

○改めて、教育協働研究所としては？期待と不安の交錯!!

そこで、ついでにここでは、改めて、「教育協働研究所」としてはどうであったのか？それについても、少し触れておきたい！もちろん、これについては、我がホームページ上に、その活動の一端を逐一報告しているが（新たな報告ツールも活用して！）、まだまだ十分とは言えない（欲張りと言われそうであるが？笑）！

ただし、その一環として行ってきた「沖縄」教育協働アカデミーについては、何人かのコアメンバーの理解と協力もあって、実のあるセミナーの実施やネットワークの構築が進んでいるようではある（一部のコアメンバーが、少しフェードアウト気味ではあるが？哀愁！最近、それに合わせて、「教育協働への道」の執筆も続けているが、果たして、どのくらいの人が、それを読んでくれているのか？全体の「閲覧カウンター」の数は、一応順調に増えているのであるが、誰が、どの記事（ページ）を、どのくらい読んでいるのかは、残念ながら分からぬ！双方のやり取りを望んでいるのであるが、今はまだ（ひよっとしたら、これからも？笑、一方通行のそれである）！

ところで、一方では、嬉しいことに、年明けには、「教育協働アカデミー」の発展形態として、教子子のY君（N市OM小学校長）の勤務する学校で、当該学校のCS（学校運営協議会）の拡大版と位置付けて、我がアカデミーとのコラボ事業を実施することになった（その後の情報によると、さらなる朗報もある！）！今後とも、このようなコラボ事業が波及していくことを望んでいるが、如何せん相手側の事情が、いつ変わるかも分からない（もちろん、こちら側の事情も）！！人事異動等の壁があるということであるが、ある意味、それはそれで仕方がない！でも、こうしたコラボ事業は、そこに思いのある人達がいるのであれば、どこであつても、それは実現する！それを信じてやるのみである（笑）！

ということで、こうしたコラボ事業が、今後どのように推移していくのか？まさに、楽しみでもあり、また不安でもあるが、我がホームページの作成と連動させながら、今後とも頑張っていく所存である！一人でも多くの理解者と参画者が増えることをさらに期待しているが、果たしてどうなるかである！！（井上）

○こちらは、国際政治の不条理(脆弱?)に立ち向かう? ○改めて、日本とは何か?日本人とは何か?

と云うことで、(こちら(堂本)の方でも、この一年を振り返ってみると、様々なことを取り上げてきたように思

う!ただし、思い(杞憂?)は、常に人々の悲惨(ウクライナ/パレスチナ(ガザ地区)等)にあった!どうしてこんな

ことにならぬのか?国際政治の不条理(脆弱?)と言えはそ

れまでだが、本当に心を痛めるばかりである!大国?の傲

慢さには、ほとほと呆れるが、それに翻弄されている、世

界の多くのか弱き?国々(人々)は、それでも健気に生き

ている(そうでない国/人々も、もちろんいるようであるが!)

!!そんなことを思いながらの(否、そう思う)ことですか、日々

の悲嘆を乗り越えることが出来なかつた、一年であつた!

だが、そうは言つても、そこでは、それぞれの国/人々

の、まさに「今を生きている/そこに生きる」という意味での、

「真実への直視」と「覚悟」ということが、否が応でも抉

り出されてきたと言えらるであろう!!つまり、これまでを覆

つていた「曖昧さへの埋没(現実逃避?)」や「事なかれ主義(他者任せ?)」が、最早許されないと云うところまで至つ

ていると云うことである!それがまた、これまでとは違う

人々の動きを出来させてもいるということである(実際は、

まだまだということではあるが!)

例えば、最近では、大地震、戦争、パンデミック等の大

きな不安がある中で、これまでとはいささか異なる?政治

の流れ(「リベラル」の悲運?)が進行しているとも言える!

何とかして、こうした不安ややるせなさ感を払拭したい!

新たな政治勢力に、そうした希望を託したい!そのように

思う人(とりわけ若者達?)が増えているということである

!!とにかく、そこには、新しい時代の到来を予感させるも

のがあるということであるが、それが、我々(我が国)に

とつてどのような変化を招来させるのか?これもまた期

待と不安が交錯しているとも言えるが、そこには、以前に

も述べた「知ってしまったが故の宿命?」、それがあつたよ

うにも思える!!だが、いずれにしても待つたなしである!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(66)〉

○突然だが、「こゝで」「高天原神話」を探る?ーその6ー

さて、そもそも「大國主命」とは何者なのか?しかも、夥しい別名がある?

もちろん、かの「出雲大社(新築大社)」に祀られる、まさに「出雲族(國

神)を代表する神(人物?)とされるが、その素性、その事績は、意外にも?

明確ではない(素戔嗚命の後継者であり、その名も、同神より授けられてはいるが?)

!!こゝでは、かの有名な「因幡の白兔」の話(『古事記』)のみに記載

も気になるところであるが、やはり、その全体としての「國つくり」、そし

て「國譲り」のことを考えてみたい。「記紀」では、義父「素戔嗚命」によ

るいじめ(器量試)を脱出して、正妻の「須勢理理媛(すせりひめ)」(素戔嗚命

の娘)と一緒?「國つくり」を行い、だが最後には、いわゆる「天孫族

ある(しかも、彼は、素戔嗚命の「6世孫」という位置づけもある?)!

ただし、もちろんこゝでは、この「大國主命」の全容を述べることが目

的ではない(そもそも不可能でもある!)。要は、彼によつて成し遂げられ

た「國つくり」、そして「國譲り」が、実際は、どういつことを指している

のかを考察してみることが重要であるということである!単純に捉えられ

ば「素戔嗚命の権力基盤を受け継ぎ、それを拡張・拡大した(國つくり)。

そして、それを、天孫族(天孫神)、直接的には「フツヌシ(物部氏)」と「タ

ケミカツチ(「皇孫氏」)その後中臣氏?美は藤原氏?)によつて奪われた(國

譲り?)ということを指していると思われるが、それは、あくまでも「象徴

であつて、特定の事件や武力対峙を意味するものではない!!

いずれにしても、問題は、全体の構図を理解することが重要であるとい

うことであるが、そこ(出雲大社)に、筑紫「宗像」との関係(筑紫社)「タ

ギリヒメ(五女神の長女?)があることが、大いに注目されることは言うまで

もない!また、大和の「大物主」と同一人物(神)ともされているようであ

るが、こゝもまた、さらなる精査が必要である(こゝは言うまでもない!た

だし、それによつて大きな史実の輪郭は描ける!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉今回は、一応「一年」を振り返つてみたが、やは

り総体では、変わらぬ一年であつたようにも思われる(様々

な出会いや出来事があつたことは事実であるが!)!!いつまで続

くか分からないが、来年もまた然りであろう!! (井上/堂本)

・ 思い出したくない過去? だがそれも

今となつては すべてが貴重!!

・ 教育協働研究所 名乗つてはきたが

その成果は? 今後も続く悪戦苦闘(笑)?

・ 国際政治の不条理(脆弱?)!

だが最早 ただ嘆くばかりではいけない!

・ いずれ問われる! 「日本」とは何か?

「日本人」とは何か? まさかそんな時代が?

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 67 号

発行日 2026.01. 15
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○新年を迎えて！私生活では楽しい時を過ごしたが…

今年も、新年を迎えて、早半月が過ぎた！本当に、時の流れは速いものである！この間、悲しい事件や事故もあったが、某国の、他国（直接的には当国大統領？）に対する大胆な軍事行動（こんなこともあるのか！）、そして、それに伴う、諸国間の「パワーバランス？」激変の危惧が高まっている！だが、個人的には、いつものように？楽しい時間を過ごさせてもらっている（辛い思いをしている人には、大変申し訳ないが！）

例えば、年末からの、次女／三女の帰省と、それに伴う家族団欒の時間（ドライブや外食、長女一家や私の実家とのオンライン年始も含めた）は、その最たるものであったが、それが、どれほど貴重なものであるかも、改めて実感させてもらった！さらには、大晦日の日の、島根県益田市のTさん（小学校の教頭先生、奥さんが沖繩の人）の来訪、また、恒例となっている、卒業生S君の、元旦早々（年明け深夜）の電話も、そうした思いに拍車をかけるものであった！

ということ、今年も、こうした楽しみ（幸せ？）を享受すべく、出来得る限りの努力（まさに、言葉の真の意味における？笑）をしていくつもりであるが、果たしてどうなるのか？とりわけ、さらなる身体的不調？が懸念されるが、それについても、可能な限りの抑止力？をつけようとも思っている！ただし、やはり、他方では、国内外の情勢（双方共にパワーバランスの激変が進んでいる？）、それに関わる政治、経済の動向が気なるところではある！私の主たる関心（杞憂？）は、もちろん「教育」にあるが、そのことと関わって、この「教育」がどのようになればよいのかということ、私なりに考え続けていく一年ともしたい！そういうことでもある！

○リベラリズムとリアリズムの対峙が先鋭化する？！

ところで、上でも述べたように（そして、大いに懸念されているように）、現在、世界的な秩序の大転換が進行している！具体的な事案はここでは挙げないが、あつという間の動きである！ある意味、飛んでもない段階の危機が生じているとも言えるが、ただここでは、そのことはともかく（表面的には、もちろん重大な問題ではあるが）、一つの気掛かりな点を書いておきたい。それは、我が国における（否、他の多くの国においても）そうであろうが、いわゆる「リベラリズム（自由／理想主義）」と「リアリズム（現実対処主義）」の関係が、より先鋭な対峙化に向かっているということである！

どういうことかと言うと、様々な「パワーバランスの変容」の局面が、「理想と現実」の深刻な対立を生み出しているということである（本来、両者は相反する、否、別世界の？ものではない！）すなわち、前者が、厳しい現実の前で自らの足場を失くし、揶揄的に言えば「お花畑で浮遊している」状況にある？そして、後者は、ますます先鋭化し、言わば「攻撃的現実主義」と化しているのではないかと！ということである！まさに、理想と現実が、ますます乖離（対峙化）しているということである！！

もちろん、理想と現実とは、本来そういうものであるとも言えるのかもしれないが、だが、よくよく考えてみると、理想は、よりよい現実を実現するためにあるのだから、それ以外の存在理由はない！とすれば、何故、その対峙が進むのか？その理由（原因）を冷徹に見つめ、互いの関係を再構築していく他ないということである！！

○「分断」を防ぐものは、何も「学校教育」だけではない！

翻って、上記のテーマ（問題）は、いわゆる「社会的分断」の問題とも、大いに関わってくる！そして、それは、必然的に、「教育」の問題にも波及してくる！そんな中、興味深いネット記事を見つけた。それは、『月刊教員養成セミナー』（12月号）の「キーワード&図で読み解く！現代の教育課題」である（12・27配信）。極端に言えば（否、そうではない？）、そこには、「世界秩序の新たな出現に際して、そこで進む『分断』が加速すれば、差別や迫害などの行為が増え、治安の悪化を招くことが危惧される」とある（加えて、「本連載のキーワード2で述べた『少子化・高齢化』（2025年9月号）が進めば、キーワード3で述べた『内なるグローバル化』（2025年10月号）は不可避で、そうした意味からも『分断』は望ましくありません。そのため、先の大統領選においても『民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ』『共生社会を実現する』ことの重要性が謳われているのです。」ともあった）。

私が取り上げたいのは、「では、『分断』を防ぐために、学校教育にはどのような取り組みが求められるのか。まず、『分断』の根っこにある『格差』の拡大を防ぐためには、さまざまな経済的支援の充実が必要。すでに、幼児教育の無償化や高校教育就学支援金制度、学校給食の無償化などが進められてはいるが、今後はさらなる拡充が求められる。また、『分断』を防ぐためには『多様な他者』を理解し、互いを尊重し合えるような学校づくりが求められる。人権教育や道徳教育の充実のほか、近ごろ提唱されている『対話的な学び』や『協働的な学び』なども、分断を解消する実践として位置付けることができる。」ということである！だが、私は、かねてより提唱してきているが、それは、最早「学校」だけに委ねられる（が対処できる）課題ではないということである！端的に、そこには、「中間共同体」（国家と個人の間に位置する集団で、家族、学校、地域コミュニティ、企業、宗教団体、労働組合など。個人が、社会において帰属感を持つための重要な役割を果たしており、特に現代社会においては、孤独感を軽減するための重要な要素とされる）の再構築が必要であり、それを同時に実現させる「教育協働」の取り組みが重要であるということである！（井上）

○やはり、普遍的な問いなのだ、それは…

はてさて、こちらの方でも、どうやら表面と同じような文脈(テーマ)となりそうである(笑?)!!というのも、こちら、昨年末に、それらに関するネット記事を見つけてしまったのである!それが、『別冊NHK200分』名著 集中講義 三大哲学書(カント『純粋理性批判』ヘーゲル『精神現象学』ハイデガー『存在と時間』)の紹介記事であるが、『哲学史上『最難解』と評されるこの3冊を、その概要、執筆の時代背景、重要概念、思想の押さえるべきポイントを厳選して解説する』という本であった!

著者は、哲学者・戸谷洋志氏であるが、それらは、『真実』はどこにあるのか?『共同体』が成立する条件とは?私たちを覆う『不安』の正体とは?という、本質的な、そしてまた、現代にとつては極めて重要なテーマを扱っている」ということであつた!ちなみに、その構成は、第0講「なぜ今『三大哲学書』を読むのか」、第1講「カント『純粋理性批判』—真実とは何か」、第2講「ヘーゲル『精神現象学』—共同体とは何か」、第3講「ハイデガー『存在と時間』—不安とはなにか」である。

残念ながら(否、恥ずかしながら?)、私(堂本)は、その『三大哲学書(古典)』を直接読んだことではないが(ただし、もちろん、その各著者は知っているし、何となくではあるが、そこで扱われている主題についても、遅まきながら分かるような気もするが?)、改めて、その三つのテーマ(「真実」「共同体」「不安」)を並列に並べられると、まさしく「現代」にも通用する主題であることが分かるということである!やはり、それは、普遍的な問いなのだということでもある!ただ、ここでは、それらについての深掘りをするつもりはない(出来ない?笑)!!強いて言えば、ここでは、(ヘーゲルの)「共同体」論が気になるところであるが、「真実」や「不安」が、その「共同体」のあり方と連環していることは、容易に推察されるところである(否、むしろこれを外していたら、それは、十分な思索とは言えない?)!!

○驚きではあるが解散/総選挙があるのだが、今何故?

余談ではあるが、政治の世界では、新年早々大変なことになる!というのである!衆議院の解散/総選挙の動きであるが、何でこんな時(新年早々と言ふ意味だけではない!)にと思ふ人は、私も含めて、多々いることであろう!!俗人の私からすれば、まったくもって迷惑?なことではあるが、当事者(候補者)達にとつては、真に切実な事態と言えるところである!そこには、もちろんT総理の政治的駆け引き、あるいは党利党略的なものが潜行していることは間違いないであろうが(このところが、私が、これまで政治を回避してきた所であるが!)、結局のところは、その推移を見守ることしか出来ない!何とも情けない話であるが、いずれにしても、それが断行されるのであれば、私達は、そこに、どのような大義(国益+国民の幸せ?)があるのか?その具体的な姿・形とは何なのか?そのことを、冷静に注視し続けていく必要がある!ただし、国内外における諸課題は、悠長な時の流れを許さないということだけははつきりしている!そこだけは、認識を共有しなければならぬ!

・何が大切か みんな分かっているのか?<短歌に託して>想い、言い続けるしか術はない!!<だつたら それを実現させる他はない!!>

・リベラリズム(理想) とリアリズム(現実) 本来は 決して対立するものではない!!

・繰り返すが 教育は学校だけの営為ではない! 現実を見れば 明らかではないか!

・必要なのは 幸せを感じさせる共同体! 政治や経済は そのためにある!!

・驚きの解散(総選挙)? 駆け引きではあるが やるならば そこに大義(国益?)があるはず!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕677

〇続いて、「日向(三代)神話」を探る?—その1—次に、やや性急かもしれないが、かの「日向(三代)神話」と呼ばれるものに、ここで少しまとまった考察を加えておきたい!もちろん、それ自体は、後世の「創作物語」ではあつたが、そこにあるモチーフ(暗喩部分)は、まさに「倭国建国(倭国+日本国)のプロセス」を指し示すものとしていえるものと考えられるからである!そこでまずは、その初代とされる「天孫(瓊瓊杵尊)の存在(活躍?)」であるが、彼は、高天原(高天原)の皇孫(高天原)と天照大神の命を受けて、「まさに生まれたばかりで葦原中国(日向)に降臨したわけである!」

いずれにしても、何とも信じがたい話?であるが(しかも、その赤ん坊は、やおら高千穂から移動して、薩摩半島南端野間岬/吾田長屋沙岬で、「天山祇命」の娘「木花佐久姫(吾田津/鹿嶋津)の姫」と出会い、すぐに「男神/ホスセリ、ホオリ(ヒコホホデミ)、ホアカリ」を生み出している!何と!何と!何か?神だから、それもあつかう、とにかく、何故、生まれたばかりの赤ん坊(瓊瓊杵尊)が、しかも、大和から遠く離れた九州に(「出雲」に国を譲らせたのではなかったのか?)?ということ、単なる荒唐無稽を超えて、神話作成者(記紀編纂者)の深い?だが見え見えの?意図を見出せるを得ない!!

これが、例の「持統天皇」と美子「草壁皇子」、そして、孫の「軽皇子(文武天皇)」の皇位継承物語と気脈が通することは、これまでも多くの人が指摘されていることであるが(文武・持統時代の勢力構図の投影?)、ただ「天孫降臨」の地が、何故「甕郡九州」であつたのかの説明は、ほとんど深掘りされていない!!神話では、隼人の祖(ホオリ)、皇室の直祖(ホスセリ/ヒコホホデミ)、そして海部氏(尾張氏/物部氏同族)の祖が、そこに示されているわけだが、その兄弟関係と支配領域を考へると、ただそれだけでは、甚だ整合性が取れない(南部九州/北部九州/大和/東海/丹波!では、中実は、どうであつたのか?) (つづく)

〈編集後記〉晴れやかな年賀の雰囲気、それこそ一気に吹き飛ばすような激動が、国の内外で頭著となつていっている!それが、望ましい未来を招来するための動きなのか?それとも、さらなる危険や不安を増長させるものなのか?我々には如何ともしたいが、日々精一杯生きていくだけである! (井上/堂本)

○「〇〇ファースト」は、ある意味原初的な原理!!

さて、こちらの方もまた、表面の記事と連動するよう
で申し訳ないが、私(堂本)としては、今回の政変劇でも
前面に出されている「〇〇ファースト」ということについ
て(日本人ファースト)に加えて、「生活者ファースト」「国家
ファースト」とかというような言質/キャッチコピーが、ある種
の流行病みたいに称呼されている!、改めて言及しておきた
い。ちなみに、それ(ら)は、おしなべて、「グローバリ
ズム」、あるいは「新自由主義」の蔓延(負のスパイラル?)
の反動とも言えるが、それは、一方では、冷静に考えると、
人間集団ないし社会/国家の原初的な原理である!! だか
ら、事実上の問題は、何故、わざわざ「〇〇ファースト」
と言わなければならないのかということである!!

と言うのも、個人であろうが、集団社会であろうが、ま
ずは「自分(達)」がファーストであることは、ある意味
自明の理である! 自らの生命や財産、あるいは利益や立場
を捨ててまで、他者(他国)に貢献するなどということは
生命体あるいは社会集団としてはあり得ない! まさに、そ
れは、生命体/社会集団にとつては、明々白々な真理であ
る! だから、「〇〇ファースト」という言い方は、至極当
然と言え当然なのである! だが、明らかなように、それ
が狂舞乱発されると、あるいは無理矢理一方的に宣言され
ると、「そこだけが良ければいい! 他者(他国)がどうなろ
うと知ったことではない! 自分達の力と責任でやれ!」と
いうようなメッセージともなる(あたかも、どこかの国の大
統領のように!)! そこが、問題なのである!

ただし、もちろんそこには、何らかの事情(思惑?)が
あることは言うまでもない! このままいくと、「自分達が
危ない? その生存に支障が生じる?」というようなことで
あるが、忘れてはならないのは、ファーストだけでは、何
も解決できないということである! 野球に譬えれば(多少
軽薄ではあるが?)、他のポジションがあつてこそ、試合に
臨めるのである! そこに英知が必要である所以である!

○これが、逆説的には、今選挙の一番の成果かも?

しつこいようであるが、今回の解散・総選挙を巡る政
党・政治家のしたたかさ(醜さ?)には、本当に驚かされた
(いみじくも、それが焙り出されてしまった? 逆説的ではあるが、
そのことが、今回の選挙の一番の成果かもしれない? 苦笑!) だ
し、これは、私(堂本)が、これまでと違って、ユーチ
ューブ視聴等も含めて、かなり真剣にその光景を見つめて
いるからかもしれない!! したがって、それは、ある意味通
常の状態(姿)であり、さほど特筆されるべきものではな
いのかも! ならない! 党利党略、我が身可愛さ、等々、そ
の形容には事欠かないが、本当に、これで、我が国が抱え
ている喫緊の諸課題(危機?)が解決(解消)できるのかど
うか? 否、こうした人達の歪な言動によって、国のあり方
や方向性が決められてしまふのか? 様々あるが、もちろ
ん、それを選ぶのは、個々の国民であるので、最終的な責
任はそちらにあるのだが(論理的には?)、とにかく、今回
の選挙結果が、大いなる分岐点となることは明らかであ
る! その感触も、大いにある! 改めて、どうなるのか?

・ 厳しくて 突然ではあるが
実はそれは 必然でもあつた!!

・ 古希から始めた 自分史と思索の軌跡!
まったくその通りである! 流石AI?

・ 「中道(中庸?)」は 単なる迎合ではいけない!
真摯な生き様の 結果であれ!

・ 〇〇ファースト 言えは言うほど陳腐?
大切なのは どうすればそれが活きるのかでは?

・ 今選挙の一番の成果? 焙り出された
政党・政治家のしたたかさ(醜さ?)!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕68(8)

○続いて、「日向(三代)神話」を探る?—その2—
だが、そこには、多少複雑な史実が横たわっている! それに、「ホスセリ」
と「ホオリ(ホデリ)」の関係(翁幸彦と山幸彦の相対?)である! 結局は、弟
の「ホスセリ」(山幸彦)が、兄の「ホオリ(ホデリ)」(翁幸彦)を従属させる
話であるが(ただし、元々の原話は、いわゆる「南方系」の兄弟逸話のおそく、こ
れを、挿入したものであることが推測される!)、それが、天皇家と軍人族の関係
(二人は、天孫「三三ギノミコト」の子、しかも、ホオリ(ホデリ)が「長子」とき
れている!)に投影されているわけである!

問題は、何故、そこに、「軍人族」が登場しているのか、そして、何故
ホオリ(ホデリ)が長子とされているのかであるが、もし、それが、かの「日
下部氏」を投影させているものであるとしたら、ある意味では否(相対?)、
そのモチーフは、現実味を帯びていることになる!! 何故なら、以前にも述べ
たと思うが、同氏は、高良山周辺の九州倭国及び丹波(丹後)地域の双方に
顔を見せているからである(しかも、応神(仁徳)時代に皇統の一部を成している!
日向(崇)君(崇)皇(崇)皇(崇)皇(崇)皇!) ちなみに、もう一人のホアカリが第三子と
されているが、彼は、「饑速日命」と同一人物(神)とされており、「物部氏」
の祖神とされる人物(神)である! 要するに、三者が、初期大和王権の構成
氏族だったということを示しているといふことである!!

そこで、改めて、もし、その三人の子が、まさに天孫(三三ギノミコト)の子
であるとすれば、そこに示されている寓話は、その後の皇統譜の史実を、
何らかの形で語り伝えていることになる! というのであるが、具体的には、
彼らが、いつ、どこで、どのように出会い、その皇統譜を創り上げたのかと
いうことである!! とは言え、ここでの類推は、記紀神話全体のそれと同じで
あるが、その時々々の史実を、一つの連続した物語として表したもののなかか?
それとも、実際の史実ではないが、自らの皇統譜作成のために創り上げた創
作物語を、実際の史実に投影させながら、再編集したものかの類推(判断)
は、まだまだ結論づけられない! こと言うまでもない(徐々に後述でもよう
な感懐はなっているが!) (?!)(つづく)

〔編集後記〕今回は、時局に関わる話がほとんどだったが、隠
棲生活? に浸かるわけにもいかないので(笑?)、私達なりにコミ
ットした次第である! ただし、楽しい、そして有意義な時間も、
一方でそれなりに計画しているのも事実である! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 69 号

発行日
2026.02. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○リベラルの瓦解？革新(性)・理想(主義)の浮遊？

本日(8日)は、まさに歴史的な日であるかもしれない(↓)否、そうだった？！詳しいことは書けないが、今回の衆議院選挙は、事前の予想以上に、大変な事態となった(与党/自民党の大圧勝に終わった！そして、政党の興隆/衰退の二極分化がさらに進んだ！)？これが、新たな政治の潮流を、確実に生み出す起点となるのかどうかは、今後の推移を見守る他ないが(一部、以前の状態で逆戻りというような要素もないわけではない？、他方では、レッテルとしての「リベラル」の瓦解、あるいは「革新(性)／理想(主義)」の浮遊が進んでいるとも言えるのではないかと！)？そこで、ここでは、この後者の問題について、少し敷衍しておきたい！

要は、いわゆる「保守対革新」という構図あるいはイメージ(尤も、それらは、メディアが無理矢理示し続けているとも言えるが？)、最早意味をなさなくなったのではないかと(？)ということである(理解としては分かり易かった？)！あるいは、少し意味合いが違うが、本当は絶対に価値ある「リベラル/リベラリズム(自由)」や「革新(性)」「理想(主義)」というものが、特定の党派のみの属性に賦与させられてきた弊害(まやかし？)が、完全に露呈してしまっただけのことである(歴史的には、その正当性はあったが、既に色褪せていた？)！！

すなわち、言うまでもなく、それらは、その時々状態によって、その意義や価値が賦与される？つまり、何のためのそれなのか、常に現前の「現実」から導き出されるということである！いくら崇高な理念であっても、それらを標榜する人物(群)やプロセスが、実際はそうなっていないならば、それらは、多くが見せかけに終わるといふことである！！

○「祀り事(宗教)」と「政り事(政治)」の関係！

ところで、私は、「祀り事(宗教)」と「政り事(政治)」の関係(表裏/体性？)について、一言言を有している(ちよつと言いつ過ぎか？笑！ちなみに、語源的には、両者は同じものとされていることは、周知の通りであり、しかも、現代においても、その両者の関係性(存在意義？)は、至るところに散見される(政治家の神社参拝もそうである？)。その意味では、「まつりごと」は、永遠に生きていくということである！現在、「宗教」と「政治」は、一応「政教分離」ということで、現代社会(近代国家)においては峻別されているが、根っ子の部分では、緊密に結びついているということでもある！！ある意味、我が国の「天皇制」とは、その象徴でもあるということである！！

いずれにしても、ここで言いたいことは、その双方共に、我々の社会には必須のものであり、その双方の関係性を、いかに位置付け、互いの存在を意義あるものとしていくかが、重要であるということである！問題は、どちらかが、どちらかを、一方的に否定したり、介入・弾圧したりすることが、往々にしてあることである(歴史的にはそうであった！)。これは、今回の、ある政党集団(野合勢力？)が持ち出してきた「中道」ということにも関わるが、その「中道」という意味は、個々人の生き方(思想・信念)の問題であり、「政治」という、それらを超克した現実の諸問題を処理していく(議論し、解決していく)社会的プロセス(システム)とは、別次元の世界である(言動の精神的支柱としたりすることはあっても)。だから、その分別(区分け)は、絶対に必要なのである！

○「VUCA時代」の「持続可能な社会の創り手」について！

次に、ここでは、少し紹介が遅くなってしまうが、かのVUCA (Volatility/変動性、Uncertainty/不確実性、Complexity/複雑性、Ambiguity/曖昧性)の時代における教育のあり方について、改めて参考になる論稿(『教員養成セミナー』1月号「キーワード&図で読み解く！現代の教育課題」)を見つけたので、それを紹介しておきたい。ちなみに、その「VUCA(ブーカ)」の内容については以前にも紹介したので、ここでは直接触れないが、これからの時代状況を表徴するキーワードであることは、言うまでもない！

そこであるが、同誌には、「これからの時代に求められる人物像としてよく語られるのが、『持続可能な社会の創り手』という言葉：現行学習指導要領の総則に登場した後、『令和の日本型学校教育』を提唱した中教審の答申や『第4期教育振興基本計画』など、あらゆる資料に登場：恐らく、次期学習指導要領にも盛り込まれる：それだけ重要な用語で、教授でもよく問われ：しかし、少し抽象的な言葉なので説明するのは容易では：旧来型の日本の学校教育が、そうした人材を育てられるかと言えば、難しい：子どもたちは日々、『正解のある問い』を解くことを求められ、学習とはそのようなものだと思えて：『総合的な学習の時間』ですら、教師が提示した課題について調べ、まとめ、発表するなど、『正解のない問い』とは程遠い活動が数多く見られ：とある。

そして、『持続可能な社会の創り手』に求められる具体的な力として、次期学習指導要領に向けた大臣諮問には、『生涯にわたって主体的に学び続ける力』『多様な他者と協働する力』などが挙げられて：そしてもう一つ、鍵を握るのが『当事者意識』という言葉で、OECDが2019年に取りまとめた『ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030』に登場する『エージェンシー』にも相通する言葉：『誰かがやってくれる』ではなく、『自分がやる』と考へ、主体的に行動・実践できる人材が求められて：とあった。まさにそうであるが、それは、ある意味当たり前のことであって、今更言うべき事でもない？だが、それが、現在実しやかに言われている！残念であるが、ただし、それは、学校だけではやれない！そこが分からなければ話にならない！！(井上)

○「記紀」の裏返しから、本当のことが見えてくる?!

前号(68)及び今号の表面では、まさに「政治」に関する話題に終始しているようにも思うが(実は、そうではない)、ここでは、私(堂本)の、もう一つの関心事である「古代史」についての大胆な推論を、改めて披歴しておきたい!それは、通説はともかく(まだまだ真偽がはっきりしないものが多い)、本当はどうか?という問いに、もちろん繋がることではあるが、一方では、個々感動ものであった!おそらくそれは奇跡に近い!!だが、残念の事実(主として考古学から得られるもの)を、それこそ精緻に解明する努力が必要であるが、他方で、多くの史料(文獻や、それについての研究成果があるにも拘らず、何故、史実がかみ合わないのか、あるいはつながらぬのか?)という点について、等しく(否、それ以上に?)追求していく必要があるということである!

ただし、それが正当な(真実を導く)アプローチであって、まだまだそこに行き着いていないという研究成果については、この限りではない!ということでは、確認しておきたい!ということでは、ここで書き記しておきたい!とは、とにかく、これまで史実解明の基本(支柱?)であった「記紀」が、残念ながら、本当の史実を誠実に示しているものではない!ということである(たとえ「正史」という呈であつても!)!また、そもそも、『古事記』と『日本書紀』は、まったく別の目的で、しかも、それなりに利害を異にする氏族(勢力)が、それぞれに書き残している代物である!ということである!前者が「多氏」族、後者が「持統・藤原不比等」勢力ということである(この辺りは、かなりの程度明らかになりつつある?)!!

○結局は、孤立無援の状況に陥る佐賀県人?

最後になるが、しかも、実際の政治とは全く別次元の話ではあるが、ここでは、ある一人の政治家(日氏)の人間模様について、書き記しておきたい!それは、奇しくも私と同じ佐賀県の人間であるが、所属政党の突然の無軌道振り(およそ考えられない?)に耐えられず、選挙直前に新党結成に至った(その苦闘は、ネットを通じて見ていた!ある意味、感動ものであった!おそらくそれは奇跡に近い!!)だが、残念ながら落選した!彼の束の間の輝き?は、おそらく歴史に散った、同郷(私は、佐賀ではなく、唐津の出身であるが!)の江藤新平のことであつた!要は、大勢(体制)に負けた者の悲哀であるが、どうも、同県出身の人間は、何故か?孤立無援(孤軍奮闘?)の状況に陥ることが多い!その理由は、客観的には示せないが(実は、今では分かっているが?笑!)、若干、我が身を重ねる次第である!だが、まだまだチャンスはある?少なくとも、もう一度だけは頑張つて欲しい!そう思うのである!

・「祀り事(宗教)」と「政り事(政治)」!
その一体性(表裏一体)を意味あるものに!
・「記紀」の裏返しから、本当のことが見えてくる?!
これが案外、近道となる?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕69

○続いて、「日向(三代)神話」を探る?—その3—
そこで、さらなる鍵を解くべく、ここでは、次の「ウガヤフキアエズ」についても深掘りしておきたい。とにかく、この人物(神)の出生譚、否成長譚は(もと)、極めて怪しく(通常ではあり得ない?)、それ故に、逆に重要な暗示話ともなっている!具体的には、母親(豊玉姫)が、何と「鰐(ワニ)」であること、その出産時に、夫(ホオリ)ヒコホホデミ(山彦)から、その正体を見られたことよつて「育見放棄(下妹の玉依姫に育見を委ねる)をしたこと、そして、何より、その育ての母(叔母)である「玉依姫」と結婚していること等々、何から何までおかしいのである(常識では理解出来な

いどころ!)!
とは言え、もちろんこれは、人間社会とは別界である神々の話(神話)であるので、ある意味他愛のない作り話ではないかと、一蹴される向きもあるかもしれない!だが、もし、これが、ある史実の暗喩(なだかり)オルメされている?であることが分れば、ことは、そう簡単にはいかならない!しかも、その元ネタと思われる実際の史実が、そこに被せられているわけでもある(当然であるが、まったくの自紙からはたゞ神話/ファンタジー?であっても、創り出すことは難しい!)—何故なら、そこには、本当らしきが必要であるからである(そうでなければ、相手にされない!)!
例えば、南九州方面には、その史実らしき伝承や史跡が目白押しである!具体的には、「ヒコホホデミ(ホオリ)山彦彦」を祀る「青島神社」やウガヤフキアエズを祭神とする「鶴戸神社」(宮崎県)、そして、後者の墓所とされる「吾平山(上)陵」(鹿児島県)等である!とにかく、それらは、真実であるかどうかはともかく、ここで言う「日向(三代)」の物語と直結させられており、その本当らしきが演出とされているわけである!!であれば、その真実とは何か?それは、「海神(ウミカミ)」(安曇族)!!「ワニ族(和魂氏)多氏(三輪氏等)」と「カモ(鴨)族(賀茂臣・朝臣氏/賀茂直氏等)」と「山祇(ヤマノミカミ)」(火明(ホノアカ)の饒速日(ニハヤヒ)系(物部氏/尾張氏/海部氏等)との集散離合の姿・形と考えられる!!(つづく) (堂本)

・何故か孤立無援に陥る 佐賀県人?
でもそこに義があるならば、それでよし!!

〈編集後記〉改めて、慌ただししい期間が過ぎた!一応、国民が選んだ結果なので、その責任はそれにあるが、政治にしる、経済にしる、そして、教育にしる、大きな変革が待ち受けていることは確か!!だが、密かな期待もある!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 71 号

発行日 2026.03. 15
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○「皇位継承」について？何が重要なのか？

とうとう、このテーマについてまで書くことになってしまった！ただし、私は、ここで、この国の「国体」の在り方そのものを、大上段に（偉そうに？）語るつもりはない！あくまでも、「天皇」を、一人の人間の生き様（人生）として捉えてみたいのである！！要は、偶々、その家系（皇族）の一員として生まれたばかりに、「天皇」という、まさに途轍もない人生（別言すれば役割？）を背負わされた人間の存在意義（運命？悲哀？）について、私なりに考えてみたいということである（まったくの不遜ではあるが！）！！

しかるに、現在（第2次世界大戦以降）、「天皇」は、「日本国及び日本国民統合の象徴」という建付けとなつて（憲法第一条）！端的に言えば、日本国／日本国民が、一つのまとまった集団（国家／社会）であることを示す、言わば「証し」だということである（よくもこうした妙案？を考えたものである！）！だが、その「証し」は、当の本人（天皇自身）にとつては、ほとんどが、自らの意思（価値観）や権利とはかけ離れて外在化している（少なくとも、国事行為としては！）！！それと葛藤や自らの言い分が、たとえあつたとしても、基本的には、その枠（制約）から飛び出すことが出来ない、否、それが許されていないということである（自由の制限？）！！

○オープン戦観戦から、久方の「じんの道遥」へ？

ある意味、これもまた、一人の人間の生き様（人生模様）ということになるが、先日（2月）、春の陽気に誘われて（下半身を鍛えるためにも？）、横浜BayStarsと広島カープとのオープン戦（宜野湾市立野球場／ユニオンです）からスタジアム宜野湾を観に行つた！ただし、試合の結果はもちろん、あまりお目当ての選手もいないので（それぞれの推しには申し訳ないが？笑、最後まで観ることなく、近くの海岸ベリ（エメラルドビーチ等）に移動した！さしずめ、久方ぶりの「じんの道遥」となつたわけである？

かくて私は、そこで、とても怪しげな中老？女性（そこにいた、特に若者達に近づき、何やら、奇妙な手振りや、彼らに話しかけていた！）を自撃した！しかも、彼女は、私にも話しかけてきたのである！最初の話しかけの言葉は、残念ながら覚えていないが、少し会話してみると、彼女は、ある宗教団体の信者であり、その布教活動の一環（ボランティア活動！ノルマ？）として、出くわす人達への話しかけ（説教？）をしているということであつた！

珍しく、私には気になつたので（その宗教団体の名は、初めて聞くものであつた！）、帰宅してから、すぐにネットで調べてみたが（ここでは団体名は伏せておく！）、かなりヤバイ団体（？）であつた！もちろん、思想・信教の自由がある、いかなる団体の宗教活動も、否定されるべきものではないが、（政治にも深く関与？）、社会問題ともなつていて！辛い出来事等が、そこに入るきっかけかもしれないが、末端の信者の誠実さ（無垢？）が切なく見える！！

○何が幸せなのか？「強くて豊かな日本」とは？

本当は、先号で書ければよかったのだが、もう一つ、関連で書きたいことがあつた！それは、先の総選挙において、大切なことは、「カネ」でもなく、「私利私欲」でもない！「幸せ」である！そのことを、「保守」であろうが、「革新」であろうが、言わば正々堂々と、自らの政治信念として披歴して欲しかったということである（特に急進政変？）！何故なら、総選挙は、国民が、自らそれを選択する唯一の機会であるからである（その意味で、選挙に参加しなかつた人間は、自らの「幸せ選択」の権利を放棄したことになる？ただし、実際は、そうした実感は沸きつらいが！）！いずれにしても、隠そうとしたり、批判し合つたり、なじつたりするだけでは、何も生まれえない！そういうことである！

ところで、その「幸せ」については、例えば「美しい日本」、「楽しい日本」、「強くて豊かな日本」等々、時のリーダー（内閣総理大臣）が、ある意味力強く提唱もしてきているが、それらは、如何せん抽象的で、情緒的な表現（目標）となつてはいることは否めない（決して間違ではないが！）！！そして、それらは、いわゆる「経済的な基盤」がなければ、空疎で、上滑りな叫びに終わることとは明らかである！ちなみに、それ自体は、あくまでも「基盤」であつて、最終ゴール（その上に築くもの）ではない！では、それは何か？やはり、それは、「幸せ（感）」なのである！いくら物質的に豊かであつても、そこに「幸せ（感）」がなければ、何のためのそれか分からなくなる！もともと「経済」が、「経世済民」を意味するならば、それは、ある意味必然のことなのである！

そこで私は、最新（T総理）の「強くて豊かな日本」というキャッチフレーズに関わつて、その骨格を構想してみたい？どこからの圧力にも屈せず、自らの思いと努力で、生きていて（生まれてきて）良かったと、各人が言える／思えるような社会（国）であるということである！それは、当然、「物の豊かさ」と共に、「心の豊かさ」が実現（保有）されているということである！厳しい現実が、そこには幾重にも横たわつていて！それは間違いないが、そうした思いや努力を否定する権利は、誰にもない！「強くて豊かな日本」とは、是非そういうことであつて欲しい！（井上）

オール○○について(○○ファーストに関わって?)

敢えてここで書くべきことではないのかもしれないが、ここでは、「○○ファースト」ということが、何故か脚光を浴びてきた昨今の状況の中で、ある意味その対極にあると考えられる「オール○○」について、少し考えておきたい!!ただし、この「オール○○」については、私(堂本)が住む○県の、県民運動のスタンス(スローガン)を強く連想させるものでもあるので、そのこととは一線を画す形で(言わば「一般論」的に?)、ここでは、その意味とあり様を述べてみたいということである!

そこで、改めて、その双方の意味とあり様を捉えてみると、そこには、ある共通点があるように思われる!それは、これまでの諸勢力(政党やそれに類する各団体等)が、その在り方を抜本的に改め、なかなか変わらない問題状況を、何とか変えていきたいという強い情動(意欲)が、そこにはあるということである!とにかく、このままではいけない!何とか、前進(改善)を図らなければ、さらに状況は悪化(硬直化)する!そうした不安や焦り、が、一気に高まったとも言えるということである!

しかし、ここには、もう一つ重要な点がある!それは、どちらも、それが向かっている先には、対抗勢力というか、自らの主張や価値観に対峙している(と感じている?)存在があるということである!だから、自らを「ファースト」とか、「オール」とかと位置付けて、それらに向かっている(こう)ということである!

気持ちには分かるし、そうした思いの結集が、大きな力(求心力)をもつということとは明白であるが、ただここで留意すべきは、そうしたスタンス(スローガン)が、思いもよらぬところで、別の(あるいは外の)勢力(国)から、悪用(逆利用?)されることがあるということである!!政治とは難しいもので、様々な勢力(国)が複雑に絡み合っていて、それを成している!だから、問題の解決に当たっては、それが、駆け引きの道具にもされるということである!!

○何(どう)を、どのように見なければよいのか?

またしても、世界は(もちろん我が国も!)、予想だにしないかった事態を迎えている(最新ではアメリカ/イスラエルによるイラン侵攻!)!見たくないもの、聞きたくないものが、次から次へと起こっているとも言えるが、だが、それを無視、あるいは耳を塞いでいくことは、残念ながら今日では不可能である(否が応でも、関係の情報・映像は飛び込んでくる!)、であれば、その最小限のウオッチとして、何(どう)を、どのように見なければよいのか?そこが、我が国、否々我々庶民?にとつては、重要な視点(関心事)となる!!

変わっていることは間違いない!だが、大事なのは、その変化の内容であり、質である!しかし、具体的には、どういふところがそうなのか?それが分からなければ、激変する変化に右往左往するか、最初からその変化に目を瞑るかのどちらかになる!!そんな中、私の視点は、大きくは、二つある!外交のスタンスと教育のスタンスである!要は、国が、どうなっているのかということである!

〈短歌に託して〉結局は、人の生き様に回帰していく?〈

・皇位継承 議論されるべきは 血統ではなく

それを引き受ける その人(天皇)の人生!

・末端信者は 何をもって その証しとする?〈

切ない姿は 現世の矛盾?〈

・何が幸せか? 選挙に託すはそれだが

結局決めるのは 一人ひとりの生き様?〈

・「オール○○」「○○ファースト」

見かけは逆だが 思いは同じ? そこを見よ!

・何(どう)を、どのように見なければよいのか?

それは外交の 他方は教育のスタンスである!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕711

○次に、「建国物語」を見てみる?—その1—

そこで、次に、実際(3世紀頃?)の、実質的な建国物語の真相を、改めて追究しておきたい!「記紀」の物語としては、神武が、九州から東征して来た時に、そこには既に、土地の豪族、「登美」と「長尾彦(なごひこ)」と、彼の妹「三玖屋姫」/「登美夜昆壳」を娶った「饒速日命」の勢力(物部一彦)がいたという。ちなみに、その「饒速日命」勢力(物部一彦)は、ある時どこからともなく生駒山麓の「峰ヶ峯(みねがたけ)」(交野市磐船(いわたぶね)神社?)に降臨し、その後天和に入ったともある!ある説によれば、彼らは、直接には「吉備」から来たのではないかと推察されているが(関谷氏)、しかもそれは、かの第十代「崇神天皇」に仮構されているが、もともとは、北部九州(厳密には「高良山」周辺?)からの進出だと考えられる!!

ところで、周知のように、その第十代「崇神天皇」は、不思議にも、初代神武天皇とともに、「ハツクニシラススメラミコト」(初めて国を治めた天皇)とされているが(ただし、表韻漢字は違ふ)、前号で述べたように、「神武」が、事実上は「架空」の天皇であったがために、この第十代「崇神天皇」が、事実上の初代とされていることは、ある意味では当然である(しかも「記紀」は、ここから現政権が始まっていると、自ら告白していることにもなる!)!ただし、ここで、改めて問題となるのは、明白に、神武「行」と「出雲」の関係ということになる!何故なら、神武は、出雲神「事代主神」/大物主神の子「ヒメタタライズヒメ/イスケヨリヒメ」と婚姻を結んでいるからである(九州に、先妻と子二人を残して?ただし、長子「手研耳(てけんみみ)命」は同行している!)!

しかるに、ここで生まれたのが、長子「神八井耳命」/多氏始祖、次子「神沼河耳命」/饒速天皇とされている!要は、そこで、出雲勢力と手を結んだということであるが、そうなる、大和建国に当たっては、出雲勢力と在地勢力の関係、そして、そこに後から進出してきた神武一行(実際は、「カモ族」と「ワニ族」の混合勢力?)との、言わば総合的(複雑?)な関係が、解き明かされなければならない!!そういうことである!(つづく)(堂本)

〈編集後記〉この期間、奥さんが留守をした(長女宅へ)!たった4泊のそれであったが、私の方は大変であった!「Home」で、一回やり取りをしたが、画面越しに見る彼女は、嬉々として?「おばあちゃん」していた!それでいいのだ!(井上/堂本)

「岳陽」と共に

第 72 号

発行日 2025.03. 30
 編集・発行 井上講四／堂本彰夫
 ※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
 Tel:098-963-9282
 E-mail: gakyou17@outlook.jp

○何と言つことだ！一方では、こんな人達がいるのだ！

先日、心温まるテレビ番組をみた。NHKスペシャル『それからの、風の電話』（3月8日(日)「総合」午後6:00）である。それは、三陸の高台にある不思議な電話ボックス。震災から15年、大切な人へと語りかける無数の声を受け止めてきました。『風の電話』と名付けられたその電話は、やがて世界中へ広がり、増え続けています。誰がどのような思いを込めて作ったのか、そこでは何が語られているのか。大切な人を突然失うという不条理の中、受話器を握る人たちの物語”であった。

「2016年にも特集した『風の電話』：は、岩手県大槌町にある、線のつながっていない”電話ボックスです。置かれたのは東日本大震災以前で、制作者の佐々木格さんが、慕っていたいとこともう一度話したいと、受話器を通じて“亡くなった方とつながれる”装置として作られました。その後、大槌町も震災に遭い、周りに大切な人を失った方がたくさんいらっしやったので『風の電話』を開放したそうです。震災の話題が減っていく中で、いま『風の電話』が世界に広がっているという稀な現象が起きています。」と続く。そして、「その数：550台以上。この広がりから、震災

では失っただけではなく、得たものや気づきもあったのではないかと思ひ、また取り上げることと：海外取材の際、ある夫婦が『風の電話』の現象を、波紋のように広がっている」と表現：大槌から始まったものがアメリカに届いて、この夫婦へ。そして、南アフリカ、ポーランド、オランダ：まさに人伝で波紋のように広がっている様子を肌で感じることができ：とあった。一方では、こんな人達がいるのである！

○奇跡みたいな話！言葉の威力？

私事であるが、これは、やはり書いておかなければならない！こんなことがあるなんて！それは、昨日（15日）のことである。宮崎から戻って風邪気味（花粉症？）が続き、私が奥さんと、久しぶりにウォーキングをするために玄關を出ようとした際に、前夜話題となったHさん（近くに住む知人で、この家の土地の所有者）と、「今日、会えるかもしれない？」と、半分冗談に（何の根拠もなく？）言いな

いづもは、まったくそこで誰とも会わない路地で、一人の老人（後ほど知ったが、85歳である！）と出会ったのである！最初、誰かは分からなかったが、向こうから声がかかったので、よく見やると、何と言つことであるうか、まさに、そのHさんだったのである（風貌が、かなり変わっている、たいていことである？）！ここ数年、大変な手術も受け、過酷な日々を送っているそうである（その時も、両方に杖をもたれていた！）家の周りを巡る散歩（歩き訓練？）であったろうが、私（達）にとつては、まさに「奇跡の出会い」であった（しかも、数分も違っていれば、それは実現しなかつたであらう！）

よく、口にすれば（言葉に出せば）、そのことが出来ると言われるが（良いことも悪いことも？）、我が国では、昔から「言霊信仰」があり、それが、実しやかに語られるところがある！私（達）は、今回改めて、その威力？を知ったことになるが、お陰で、案内された自宅の庭にて、将来の我が家の処遇等についても話が出来（彼の奥さんも一緒）、本当に会えてよかつたと思つ次第である！

○永遠の課題？「二」でも、「統一性」と「多様性」の問題が？

次に、ここでは、ある意味私にとってはタブー？であった「皇位継承」の問題について先号で述べたので、もう一つ（他にも幾つかあるが）、現在国会で議論されている「夫婦別姓」の問題についても、若干だが言及しておきたい！もちろん、現代において、夫婦が別姓を名乗りたいのなら、その実現のために、社会全体が、そちらの方へ移行することは、ある意味正当（正義？）であると言えらる！そこで登場しているのが、「選択的夫婦別姓」という考

え方であり、そのしくみづくり（制度化）の動きであるが、まだまだ、その具体ははつきりとはしていない！！
 しかるに、これは、私が、ある意味ずつと追いかけてきた、人間社会（一つの国家）の宿命？である「統一性と多様性（の相克？）の問題である！様々な人間（個々人の思想や価値観、あるいは利害得失を、どのように調整していくのかということであるが、まさに、この「選択的夫婦別姓」の問題は、その典型（究極的な課題？）だということである！！単なる、個々人の利害得失あるいは主義・主張のぶつかり合いだけでは、社会（国家）が混乱に陥り、全体の維持・調整がうまくいかなくなるということである！しかも、この「選択的夫婦別姓」の問題は、いわゆる「戸籍制度の根幹に関わる重要課題である！

とりわけ、それは、子どものアイデンティティ形成に直接影響を与える、大問題でもある！もちろん、子どもがいない夫婦においては、そのことは論外であるが、多様な家族形態が、これからも進んでいくと考えられる状況においては、その全体の整合化が、極めて難しいものとなることは明らかである！！要は、現行の戸籍制度、その運用に関わって、当該の当事者が被っている個別の不利益や不都合（心理的苦痛については、多少疑問も生じるが？）を、如何に解消していくかであるが、その解消策が、全体の戸籍制度や家族のあり方を、根本的（真逆？）に変えるものとなることは、絶対にあつてはならないということである！！「統一性」と言えば、何か、個々人の権利や主張を抑えるものというような評価・印象を与えかねないが、実は、そのことは、重要な原点であるということ忘れてはいけないということである！（井上）

○逆に、どうなっているのが鮮明になってきた？

さて、(二)では(ある意味繰り返される)ことになるかもしれないが、国内外において、「今までとは違う何かが始まっていく!!」しかも、急激で、広範に!!そのことについて、少し書き記しておきたい。すなわち、そこで確実に言えることは、諸課題への対処のスタンス、そして、それに関わる言説が、今までとは違う形で、根本的に変わってきている?そういうことである!!どうせ何を言っても、事態は変わらない?イライラ、モヤモヤばかりが募る?解決が求められるのに、右(与党?体制側?)も左(野党?反体制側?)も、一方はかわすばかり、他方は批判するばかり?その構図が、いつまでたっても続く?そういうことであつた!!

だが、その構図が、確実に変わってきている!!そういうことである!!それは、直接的には(しかし、突発的に?)、劇的な政治展開を見せている「下総理」のお陰?かもしれないが、冷静に捉えれば、我が国が抱える各種の問題が、もうこれ以上先送り(曖昧戦術?)にはできない!ということまで至っている!!ということである(皮肉にも、かの下総理の所為?もあるが!)!ある種の「臨界点」に来ていたということでもある!!いずれにしても、結果的に、否が応でもの現実が、まさに現前に立ち現れてきたということであるが、一方で、それ故に、何がどうなっているのか鮮明に(ある意味露骨に?)、国民に知らされることになったということでもある(例えば、「消費税」のからくりとか、メディア、とりわけオールドメディアのスタンスとかである?)!

ということ、**「対決から解決へ」**ということ、**新たなステップ**を取ろうとする政党も出てきたが(最近では、少し微妙ではあるが?苦笑)、最早、悠長な(表面的には激しく見えるが、意味のない?)対立(かわす/ポロを出させる?)関係では、**「つつもさつちもいかな」ところまで来ている**ということである!!つまり、そういうことをやっている場合ではない!!ということである!!そして、それが、**冷徹で、客観的な事実だ**ということである!!

○「理想」と「現実」の世界線が永遠に交わらないのか?

最後になるが、繰り返すように、最近では、政治の世界にどつぷりと浸かっている!!そして、つくづく思うのは、理想と現実の哀しい(否、空しい?)乖離である!!まるで、交わることはない「世界線」の如くである!!ここで想起されるのが、かのプラトンの「イデア論」であるが、ひよっとしたら、彼も、同じことを感じていたのかもしれない(笑?)

彼は、「本当にこの世に実在するのはイデアであつて、我々が肉体的に感覚する対象や世界とはあくまでイデアの似像にすぎない。現実世界は不完全な『影』に過ぎず、その背後に、永遠で完璧な『本物』の世界(イデア界)が存在する」としたようであるが、これは、認めたくない(嫌な?)現実を回避すべく構想された(「理想」を優位に置いた?)、一種の「認識(解脱?)論」であることは言うまでもない?今の私には、それも思えるのである!!古代の大偉人にケチをつける気は毛頭ないが、大事なことは、「理想」と「現実」は、同じ「世界線」にあり、それ故に、同時に受け止め、同時に対処しなければならぬのである!!

・短歌に託して、激変でも、大切なものは見失うな!!
・風の電話 素敵な名だ!
そこに繋がる 深き愛? これも人の世!

・言霊の威力? 奇跡とぞ思ふ!
そんなことが 我が身に起きようとは!

・「統一性」と「多様性」の相克!
ある種の永遠? 民主主義はそのためにある!!

・鮮明になつてきた? 内外のからくり!
知りたくはなかつたが そこが始点?

・理想と現実 交わらない世界線か?
そんなことはない! 同じ時空なのだから!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕72

○次に、「建国物語」を見てみる?その2

ということ、ここでは、私にとっては新たな知見(推測?)となるが、記紀の「建国物語」における、神武亡き後の、子も三人(先妻の子 手研耳命、大和での長子「神八井耳命」と次子「神沼河耳命」の関係と動きについて言及してみたい!最終的には、大和での妻子「神八井耳命」と「神沼河耳命」の兄弟が協力して、先に王位を継承(略奪?)していた(先王の妻)義理の母「ヒメタラリスズヒメ(アスケヨリヒメ)」を後妻としていた「手研耳命」を弑逆し、話し合いの末(神八井耳命が譲った?)、次子「神沼河耳命」が、第2代となった(継躰天皇)ということであるが、これは、まさしく三者(勢力)の後継争いを指していると考えられる!!

尤も、これが、本来の(記紀で仮構された)神武東征後の話なのか、それとも、「崇神(神皇正統)期以降の話なのか?それについては、今現在では、まだまだ明確とは言えないが(私自身の感懐としては、後者の方だと睨んでいるが?)、いずれにしても、そこには、南九州の勢力(日向族)とも呼べるような(日向部氏?)と、血統的には「出雲(彦)と融合した(九州からの?)吉備勢力(ウニカキ族?)との離合集散のプロセスが投影されているのではないかとということである!!であれば、確認するうちに、「手研耳命」、「神八井耳命」、「神沼河耳命」は、それぞれの勢力を、言わば象徴させた人物(神)であるということになるわけである!!

そこで気になってくるのが、最終的には、次子「神沼河耳命」に皇位を譲つた?「神八井耳命」のことである!実は、この「神八井耳命」は、かの「多(天)彥尊(天)氏」の祖とされている人物(神)であるが、彼を連想させる?「大彦彦尊」のことが、頭を過る(後が、ここで言う「多氏」の始祖?)!彼は、いわゆる「四道將軍」の一人として、第10代崇神天皇から、北陸道への侵攻を命じられたとされている人物であるが(東北(公)津に、同じく「東海」に派遣された、子の「建沼河別命」(阿倍氏)の祖と公認したので、その地名となったという逸話がある?)、一方で、もう一人の重要人物である丹波道主(たみ)の命(又は父の「彦坐(彦)王」)が、ここでの文脈と氣脈を通してくる?そう思っているのである!!(つづく) (堂本)

〔編集後記〕この間から、我が奥さんが、自分で育てた花の苗を玄関入口に置いていて!通りすがりの人に、もって行って貰うためである!思いは、我々と共通するかもしれない!!(井上/堂本)